

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月24日
【事業年度】	第11期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）
【会社名】	リスクモンスター株式会社
【英訳名】	Riskmonster.com
【代表者の役職氏名】	代表取締役CEO 菅野 健一
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町二丁目2番1号
【電話番号】	03-6214-0331
【事務連絡者氏名】	代表取締役COO兼CFO 藤本 太一
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町二丁目2番1号
【電話番号】	03-6214-0331
【事務連絡者氏名】	代表取締役COO兼CFO 藤本 太一
【縦覧に供する場所】	リスクモンスター株式会社大阪支社 （大阪市中央区今橋二丁目5番8号） リスクモンスター株式会社名古屋営業所 （名古屋市中村区名駅四丁目23番13号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第7期 平成19年3月	第8期 平成20年3月	第9期 平成21年3月	第10期 平成22年3月	第11期 平成23年3月
売上高 (千円)	1,364,085	1,884,047	2,174,071	2,185,952	2,461,146
経常利益 (千円)	196,388	170,479	315,731	224,543	240,159
当期純利益(損失) (千円)	98,627	114,114	169,676	165,417	124,166
包括利益 (千円)	-	-	-	-	132,854
純資産額 (千円)	2,901,167	2,819,451	2,877,821	3,065,775	3,221,701
総資産額 (千円)	3,111,290	3,121,504	3,127,217	3,313,220	3,747,383
1株当たり純資産額 (円)	69,950.04	67,621.72	73,319.99	78,106.14	81,526.91
1株当たり当期純利益 (損失)金額 (円)	2,411.60	2,762.59	4,179.63	4,244.84	3,186.29
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	2,341.91	-	4,179.12	4,241.58	-
自己資本比率 (%)	92.6	89.6	91.4	91.9	84.8
自己資本利益率 (%)	3.5	-	6.0	5.6	4.0
株価収益率 (倍)	53.49	-	14.36	11.85	14.84
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	344,579	191,620	517,959	465,567	544,393
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	619,199	389,404	268,497	456,667	201,304
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	35,514	5,120	117,871	-	59,994
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	1,791,520	1,598,856	1,730,447	1,739,347	2,022,441
従業員数 (人) (外、平均臨時雇用者数)	62 (10)	70 (9)	68 (32)	73 (28)	99 (42)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第8期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
3. 第8期の自己資本利益率及び株価収益率については、当期純損失であるため記載しておりません。
4. 第11期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第7期 平成19年3月	第8期 平成20年3月	第9期 平成21年3月	第10期 平成22年3月	第11期 平成23年3月
売上高 (千円)	1,364,085	1,530,552	1,688,217	1,670,362	1,573,200
経常利益 (千円)	202,745	143,944	288,271	158,844	138,896
当期純利益(損失) (千円)	106,494	140,883	141,278	34,859	74,327
資本金 (千円)	1,102,548	1,107,428	1,107,428	1,107,428	1,107,428
発行済株式総数 (株)	41,200	41,383	40,383	40,383	40,383
純資産額 (千円)	2,901,566	2,771,729	2,802,642	2,860,420	2,945,454
総資産額 (千円)	3,120,772	2,960,374	2,969,794	3,022,412	3,146,578
1株当たり純資産額 (円)	70,323.22	66,977.48	71,907.11	73,342.97	75,484.88
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	500 (-)
1株当たり当期純利益 (損失)金額 (円)	2,603.96	3,410.65	3,480.11	894.55	1,907.35
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	2,528.71	-	3,479.68	893.86	-
自己資本比率 (%)	92.8	93.6	94.4	94.6	93.5
自己資本利益率 (%)	3.8	-	5.1	1.2	2.6
株価収益率 (倍)	49.54	-	17.24	56.23	24.80
配当性向 (%)	-	-	-	-	26.2
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	56 (10)	61 (8)	56 (13)	61 (16)	57 (15)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第8期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第8期の自己資本利益率及び株価収益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

4. 第11期の1株当たり配当金は、記念配当であります。

5. 第11期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
平成12年9月	東京都港区赤坂において、インターネットを利用した与信管理サービス業を目的として、資本金325百万円でリスクモンスター株式会社を設立
平成12年12月	取引先の与信判断ツール「e - 与信ナビ」サービスを開始
平成13年1月	取引先の信用力の変化を把握するツール「e - 管理ファイル」サービスを開始
平成13年5月	本社を東京都千代田区神田司町二丁目8番地に移転
平成13年7月	マーケティングリスト作成ツール「攻めモンスター」サービスを開始
平成13年9月	大阪支社開設
平成13年10月	取引先全体のリスク構成を分析する「ポートフォリオサービス」を開始
平成13年12月	株式会社ジー・サーチと提携し、n i f t y 顧客向けに情報配信
平成14年3月	新事業創出促進法に基づく認定取得
平成14年10月	名古屋営業所開設
平成16年1月	「I S M S 適合性評価制度」認証取得
平成16年3月	本社を東京都千代田区大手町一丁目2番3号に移転
平成16年8月	信用保証サービス「Secured Monster」をスタート
平成17年2月	「B S 15000 (I T サービスマネジメントシステム) 」認証取得
平成17年3月	大阪証券取引所ヘラクレス (現 大阪証券取引所 J A S D A Q) に株式を上場
平成17年5月	与信管理 A S P サービスに関する設備の全面リニューアルを開始
平成17年11月	法人データ付アウトバウンドサービス「テレアペンドサービス」を開始
平成17年12月	リスモン・マッスル・データ株式会社 (現 連結子会社) を設立
平成17年12月	新株予約権 (第三者割当て) の発行
平成18年2月	営業支援サービス「マーケティングモンスター」を開始
平成18年3月	「ISO/IEC20000」認証取得
平成18年6月	eラーニングサービス「ラーニングモンスター」サービス開始
平成19年3月	「ISO/IEC27001」認証取得
平成19年11月	株式会社ジェービーピー (現 リスモン・ビジネス・ポータル株式会社、現 連結子会社) の株式取得
平成21年2月	国内最大級のビジネスデータベース「日経テレコン21」に与信判断サービス「リスクモンスター企業信用格付」を提供開始
平成21年7月	本社を東京都千代田区大手町二丁目2番1号に移転
平成22年4月	連結子会社リスモン・ビジネス・ポータル株式会社が通信デバイス、ネットワーク技術を利用した新サービス開発を行うことを目的として株式会社クレメンテックに資本参加
平成22年5月	eラーニングシステム及び学習コースの開発・販売等の教育関連事業を主業とするサイバックス株式会社 (現 連結子会社) の株式取得
平成22年12月	与信管理サービスの倒産格付ロジック改訂により「R M 格付」を6段階から9段階にバージョンアップ
平成23年1月	株式会社エフアンドエムが運営する「エフアンドエムクラブ」の会員企業向けに「リスモン企業信用格付」提供開始
平成23年1月	連結子会社リスモン・マッスル・データ株式会社が、高い精度のデータエントリーノウハウを有し大手金融機関との取引実績を誇る日本アウトソース株式会社 (現 連結子会社) の全株式を取得

3【事業の内容】

(当社グループ事業の背景とその概要)

法人間における取引は通常、企業間信用取引（以下「与信取引」という。）として行われます。与信取引とは、取引先との間に、経済的または、短期的に循環して発生する取引において、営業上の未収金が発生する取引形態をいいます。本来、商取引に際しては販売及びサービス業における役務発生と同時に現金取引を行うことが、債権の管理上、最も安全と言えますが、取引が頻繁かつ継続的に発生するとその都度現金を受け取るのは非効率であり、また、取引先の信頼の度合いに応じて、未収金を回収する期間が約束され、その結果として売掛金や受取手形等の販売債権等の発生が伴う与信取引が行われることとなります。しかし、与信取引においては、将来、販売代金を現金で回収できるかどうかは確実ではなく、常に回収できないかもしれないという不確実性があります。それゆえに、与信取引は継続的な管理（以下「与信管理」という。）が必要となります。与信管理を行うためには、取引先のデータを収集・分析することにより取引先の信用力やその動向を予測・管理する作業が必要となり、与信管理を通じて販売代金の回収の確実性を高めていくことが、企業経営の重要なリスクマネジメント戦略の一つとなっております。なお、与信管理は会計、法律及び経営等に係る多くの知識が必要であり、専門性も要求されます。さらに近年、企業経営の透明性が求められる環境の中で、与信に係る判断基準については、主観的基準のみならず客観性も強く求められつつあります。また、急速に進む社会のIT化、eビジネスへの転換の流れは企業間競争を激化させ、ひいては意思決定のスピード及びコストダウンが求められ、新しい与信管理のあり方がクローズアップされております。

当社は、このような与信管理の再認識傾向を見込み、平成12年9月に、これまで明確な形で存在していなかった審査・与信管理業務のアウトソーシング市場を自ら開拓・確立する目的で設立されました。

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（リスクモンスター株式会社）、連結子会社4社（うち、サイバックス株式会社は平成22年5月取得、日本アウトソース株式会社は平成23年1月取得）及び非連結子会社1社で構成しており、与信管理サービス等、ビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）、BPOサービス及びその他サービスを提供しております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の3事業は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

- ・与信管理サービス等・・・当社
- ・ビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）・・・リスモン・ビジネス・ポータル株式会社
- ・BPOサービス・・・リスモン・マッスル・データ株式会社、日本アウトソース株式会社
- ・その他・・・サイバックス株式会社

(セグメント及びサービス一覧)

セグメント	サービス分野別	サービス内容
与信管理サービス等	e - 与信ナビ	倒産実績に裏付けられた「RM格付」（注2）と、会員企業の財務体力を考慮した「RM与信限度額」（注3）等、与信意思決定に有効となる具体的な取引可否判断指標を提供するサービスです。新規取引や既存取引先の与信判断のツールです。
	e - 管理ファイル	継続的に与信が発生する取引先を登録し、一括動態管理を行うツールです。登録企業の信用状況及び企業データに変更があった場合に、電子メールにてアラーム通知（注4）する機能が特徴です。取引先の信用力の変化を常時把握することで機動的な債権保全が可能となります。
	営業支援サービス	企業データベースから、所在地や業種、資本金等の検索条件を指定し、マーケティングリストを作成するツール「攻めモンスター」があります。また、「RM格付」を利用した検索機能もあり、企業データベースの中から優良企業を選別し、効率的な営業活動が可能となります。また、市場調査レポート「マーケティングモンスター」や地図を利用した「攻めMAP」等があります。
	その他	RM格付ロジックの精度の検証として、毎月の格付別倒産実績を公開している「アナリストモンスター」、取引先の詳細情報の履歴がわかる「プレイバックモンスター」、審査用語辞典や契約書式集等実務に役立つ「お役立ちツール」や要望やクレームを投稿できる「RM目安箱」、FAQ等があります。

セグメント	サービス分野別		サービス内容
与信管理サービス等	コンサルティングサービス	ポートフォリオサービス	取引先全体のリスク構成を、「RM格付」や「RM与信限度額」等当社独自の各指標を駆使し、低コストかつ短期間で分析するサービスです。
		マーケティングサービス	既存顧客、商圈を当社独自の各指標で分析し、営業支援を行うサービスです。
		金融サービス	「RM格付」と連動した保証限度額・保証料率が設定される信用保証サービスや取引信用保険等の債権保全サービスが「Secured Monster」シリーズです。会員は「RM格付」という統一した債権評価基準を保有することで、より具体的な債権保全のマネジメントが可能となります。
		その他	「RM格付」や「RM与信限度額」等当社サービスを活用して、会員企業に合わせた与信管理規程作成サービス、また、社内啓蒙を目的とした研修サポート等も実施しています。
ビジネスポータルサイト(グループウェアサービス等)	A S Pサービス	グループウェアサービス	スケジュールや会議室の管理等、社内の情報を共有し、業務の効率化を図るグループウェアやワークフロー等を提供するビジネスポータルサイト「J-MOTTO(ジェイモット)」を運営しております。
	その他		ホームページの公開やメールの送受信に必要なサーバの機器や領域を貸し出すホスティングサービス等があります。自社運営に比べ大幅なコスト削減と手間の軽減を実現いたします。
B P Oサービス	デジタルデータ化等B P Oサービス		マーケティング業務の効率化及びデジタルデータ化ソリューションによるサービスです。情報をスピーディーにデジタルデータ化し分析します。
	派遣事業サービス		データエントリー・アウトソーシングで培ったノウハウを活かし、非コア業務に付随する内製作業を専門的に行うスタッフを派遣いたします。お客様にコア業務に集中していただける環境の提供を実現いたします。
その他	教育関連事業等その他サービス		eラーニングサービス、360度評価サービス及び集合研修サービス等があります。

(注1) A S Pサービス

企業等の会員に対して、インターネット等を介してアプリケーションソフトを提供するサービスです。

(注2) RM格付

当社では、企業を大きくA～Fの6段階に格付し、さらにE格及びF格をE1、E2、F1、F2、F3にそれぞれ細分化し、合わせて9段階の格付情報を会員に提供しております。この格付は、過去の倒産実績に裏付けられた独自指標であり、A格の企業は倒産確率が低い、つまり倒産しにくい企業、逆にF格の企業は倒産確率が高い、つまり倒産しやすい企業といえます。定期的なデータ更新等によりロジックの補正を続けているのもRM格付の大きな特長です。

(注3) RM与信限度額

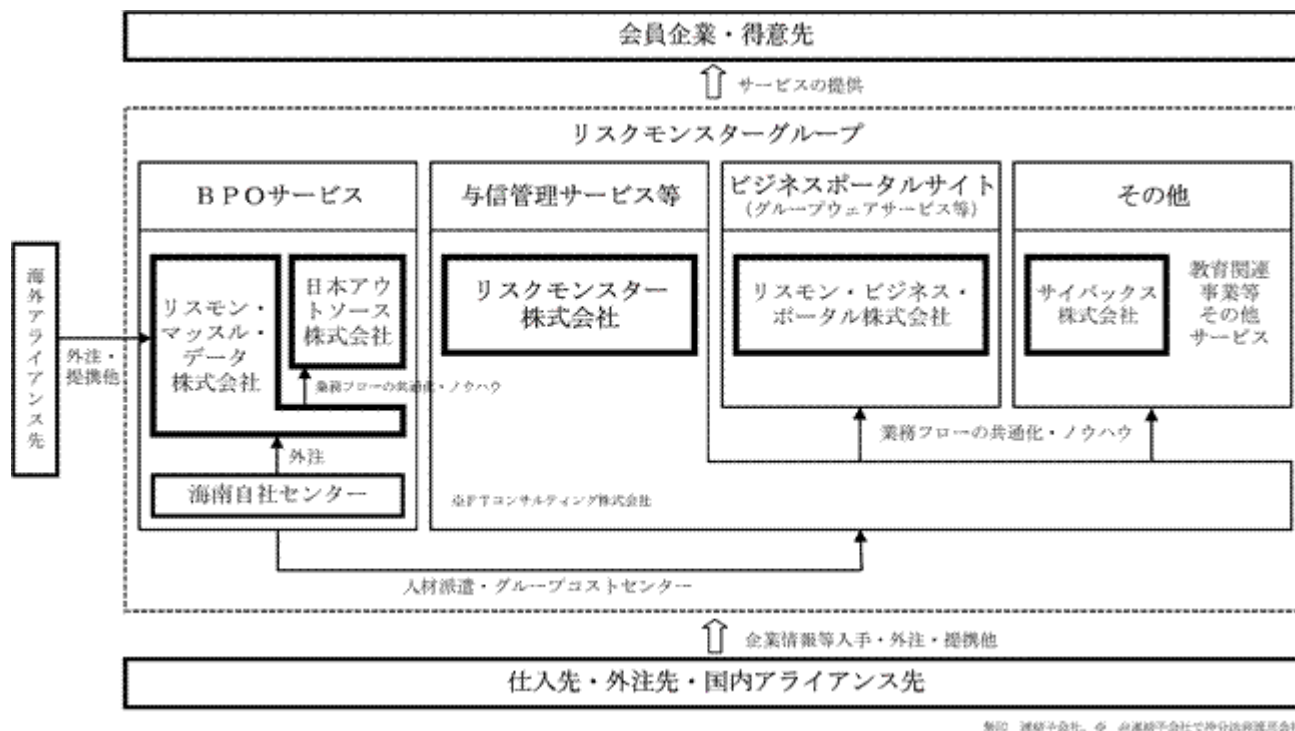
さまざまな与信限度の設定法が提唱されておりますが、当社ではそれらを複合させ、致命的なダメージを受けない与信限度額として、会員企業の財務体力に応じた格付ごとの“基本許容金額”、取引先の仕入債務のシェアを考慮した売込限度金額、さらに会員企業の決裁権限に応じた決裁限度金額の3つを算出し、その最小値を「RM与信限度額」として提供しております。

(注4) アラーム通知

当社では、会員企業に代わり取引先の信用状況変化や、企業信用情報の変更を把握し、電子メールにて通知しております。

(事業系統図)

当社グループの状況を事業系統図で示すと次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) リスモン・マッスル・データ株式会社(注)2	東京都千代田区	30	BPOサービス	98.7	データ解析等のアウトソーシング他 役員の兼任等
(連結子会社) 日本アウトソース株式会社(注)3	東京都渋谷区	30	同上	100.0 (100.0)	人材派遣の受入れ 役員の兼任等
(連結子会社) リスモン・ビジネス・ポータル株式会社(注)4	東京都千代田区	30	ビジネスポータルサイト(グループウェアサービス等)	95.0	サービス利用他 役員の兼任等
(連結子会社) サイバックス株式会社	東京都千代田区	30	その他	51.2	同上

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

4. リスモン・ビジネス・ポータル株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等 (1) 売上高 506,742千円
 (2) 経常利益 114,740千円
 (3) 当期純利益 67,958千円
 (4) 純資産額 425,472千円
 (5) 総資産額 556,990千円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
与信管理サービス等	57 (15)
ビジネスポータルサイト(グループウェアサービス等)	5 (8)
BPOサービス	20 (19)
報告セグメント計	82 (42)
その他	17 (-)
合計	99 (42)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 当連結会計年度において、従業員数が26名増加しておりますが、これは主にその他の事業において平成22年5月13日付でサイバックス株式会社、BPOサービスにおいて平成23年1月14日付で日本アウトソース株式会社の株式を取得したことに伴い、当連結会計年度より連結の範囲に含めたことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
57 (15)	33.4	4.4	5,124

セグメントの名称	従業員数(人)
与信管理サービス等	57 (15)
合計	57 (15)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除く。)であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度における我が国経済は、企業収益の改善や設備投資が下げ止まる等緩やかな回復基調で推移したものの、株式市場の低迷、円高の長期化、厳しい雇用情勢やデフレの進行等、景気の先行きは予断を許さない状況が続きました。さらに、東日本大震災による甚大な被害と原発事故の影響は極めて深刻であり、我が国経済は未曾有の危機に直面しております。当社グループを取り巻く経営環境といたしましては、企業全般における経費削減傾向が続いており、厳しい事業環境となりました。今後も引き続き、お客様のサービス選別が厳しくなることが考えられます。

こうした状況の下、当連結会計年度は以下のような取り組みを行いました。

- ・ビジネスポータルサイト「J-MOTTO（ジェイモット）」会員向けに「J-MOTTO企業信用格付」の提供開始
- ・連結子会社リスモン・ビジネス・ポータル株式会社が通信デバイス、ネットワーク技術を利用した新サービス開発を行うことを目的として株式会社クレメンテックへの資本参加
- ・「日本を元気にするリスモン式と信管理力」書籍出版
- ・eラーニングシステム及び学習コースの開発・販売等の教育関連事業を主業とするサイバックス株式会社の子会社化
- ・エヌ・ジェイ出版販売株式会社と協業し、「リスモン企業実務サポート」をグループ全会員に提供開始
- ・お客様と一緒に植林するエコ活動「未来に緑を増やそう！リスモン・グリーンプロジェクト」を開始
- ・連結子会社リスモン・ビジネス・ポータル株式会社がワークフローソフト「J-MOTTOワークフロー」サービス提供開始
- ・与信管理ASPサービスで企業データに約10万社の企業ホームページURLデータを付加し、会員企業向けに提供開始
- ・サービススタート10周年記念キャンペーンを開始
- ・与信管理サービスの倒産格付ロジック改訂により「RM格付」を6段階から9段階にバージョンアップ
- ・株式会社エフアンドエムが運営する「エフアンドエムクラブ」の会員企業向けに「リスモン企業信用格付」提供開始
- ・連結子会社リスモン・マッスル・データ株式会社が、高い精度のデータエントリーノウハウを有し大手金融機関との取引実績を誇る日本アウトソース株式会社の全株式を取得

その結果、当連結会計年度の売上高は2,461,146千円（前年同期比112.6%）となりました。営業利益は238,398千円（前年同期比106.4%）、経常利益は240,159千円（前年同期比107.0%）、当期純利益は124,166千円（前年同期比75.1%）となりました。

セグメント別の業績について

セグメント別の売上高につきましては、セグメント間取引消去前の売上高で記載しております。

ア) 与信管理サービス等について

当連結会計年度の与信管理サービス等の売上高の合計は1,496,009千円（前年同期比94.0%）となりました。各部隊の活動の進捗管理と採算管理を徹底し生産性向上に努めたものの売上高が伸び悩み、セグメント利益は160,408千円（前年同期比95.3%）と減少いたしました。与信管理サービス等の売上高をサービス分野別に示すと、次のとおりであります。

セグメント	サービス分野別	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
与信管理サービス等	ASPサービス(千円)(注)2	1,332,322	
	コンサルティングサービス	ポートフォリオサービス及び マーケティングサービス(千円)	119,173
		その他(千円)(注)3	44,513
		コンサルティングサービス売上高 合計(千円)	163,686
	与信管理サービス等売上高合計(千円)	1,496,009	

(注)1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 当社が独自に開発したシステム「RM2 Navi System」を利用して、企業信用情報提供会社の有する約250万社の企業情報の信用力を定量化し、インターネット経由で与信情報を提供するサービス
3. 「金融サービス」等を含むその他サービス

) ASPサービス

長引く景気低迷による経費削減対策の影響を受け、利用件数が落ち込んだこと等により、与信管理サービス等のASPサービスの売上高は1,332,322千円となりました。

）コンサルティングサービス

会員企業の経費削減対策の影響を受け、金融サービス等を含むその他の売上高は44,513千円と落ち込んだものの、ポートフォリオサービス及びマーケティングサービスの売上高は119,173千円と順調に推移し、コンサルティングサービスの売上高の合計は163,686千円となりました。

イ) ビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）について

中堅・中小企業向けビジネスポータルサイト「J-MOTTO（ジェイモット）」会員向けサービスの売上高が434,661千円と堅調に推移したこと等により、当連結会計年度のビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）の売上高の合計は506,742千円（前年同期比103.7%）、セグメント利益は100,330千円（前年同期比103.0%）となりました。ビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）の売上高をサービス分野別に示すと、次のとおりであります。

セグメント	サービス分野別	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
ビジネスポータルサイト (グループウェアサービス等)	ASPサービス(千円)(注)2	434,661
	その他(千円)(注)3	72,081
	ビジネスポータルサイト(グループウェアサービス等) 売上高合計(千円)	506,742

(注)1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. インターネットを活用したグループウェアを中心として提供する中堅・中小企業向けビジネスポータルサイト「J-MOTTO（ジェイモット）」を利用できる会員向けサービス
3. ホスティングサービス等を含むその他サービス

ウ) BPOサービスについて

景気低迷の影響を受け低調だった前連結会計年度に比べ、大口継続案件の処理量が増加したことや、平成23年1月に連結子会社リスモン・マッスル・データ株式会社が日本アウトソース株式会社の全株式を取得したこと等により、当連結会計年度のデジタルデータ化サービス等を中心としたBPOサービスの売上高の合計は280,986千円（前年同期比210.5%）となりました。処理量の増加に伴い人件費や海外事務処理センターの固定費が増加したことや、グループの事務処理集中センターとしてコストセンター部門の費用を負担していること等により、セグメント損失は23,005千円（前年同期はセグメント損失41,686千円）となりました。BPOサービスの売上高をサービス分野別に示すと、次のとおりであります。

セグメント	サービス分野別	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
BPOサービス(注)2	デジタルデータ化等BPOサービス(千円)	260,032
	派遣事業サービス(千円)	20,953
	BPOサービス売上高合計(千円)	280,986

(注)1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. ビジネス・プロセス・アウトソーシング(BPO)サービス

エ) その他サービスについて

平成22年5月に教育関連事業を主業とするサイバックス株式会社の株式を追加取得し子会社化したことにより、当連結会計年度のその他サービスの売上高は217,492千円（前年同期比 - %）、セグメント利益は659千円となりました。

会員数について

当連結会計年度末の会員数は、与信管理サービス等が3,488会員、ビジネスポータルサイトが3,955会員、合計7,443会員となりました。会員数の推移（累計）を示すと、次のとおりであります。

回次	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期
決算年月	平成19年 3月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月
与信管理サービス等（注）1	3,584	3,783	3,378	3,043	3,488
ビジネスポータルサイト （グループウェアサービス等）（注）2	-	4,196	4,371	4,214	3,955
会員数合計	3,584	7,979	7,749	7,257	7,443

- （注）1．与信意思決定サービス「e - 与信ナビ」及び関連サービスを利用できるライト会員、「e - 与信ナビ」及び動態管理サービスである「e - 管理ファイル」並びに関連サービスを利用できるレギュラー会員、提携先とのサービス相互提携を行う提携会員の合計
- 2．インターネットを活用したグループウェアを中心として提供する中堅・中小企業向けビジネスポータルサイト「J-MOTTO（ジェイモット）」を利用できる会員
- 3．会員数は当社に登録されているID数
 なお、与信管理サービス等及びビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）に重複登録している会員が一部あります。

収益について

当連結会計年度の収益につきましては、長引く景気低迷の影響を受け与信管理サービス等の収益が落ち込んだものの、平成23年1月に連結子会社リスモン・マッスル・データ株式会社が日本アウトソース株式会社の全株式を取得し子会社化したことや、ビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）が堅調に推移したこと等により、営業利益が238,398千円（前年同期比106.4%）、経常利益が240,159千円（前年同期比107.0%）となりました。

当期純利益につきましては、前連結会計年度は過年度に計上した投資有価証券評価損等が税務上の損失計上の要件を満たし税金費用が軽減いたしました。当連結会計年度は子会社の繰越欠損金が解消されたこと等から課税所得が増加したことに伴い税金費用も大幅に増加した結果、124,166千円（前年同期比75.1%）となりました。

当連結会計年度の収益を示すと、次のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）		当連結会計年度 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）		前年同期比 （%）
		対売上比 （%）		対売上比 （%）	
売上高（千円）	2,185,952	100.0	2,461,146	100.0	112.6
営業利益（千円）	223,959	10.2	238,398	9.7	106.4
経常利益（千円）	224,543	10.3	240,159	9.8	107.0
当期純利益（千円）	165,417	7.6	124,166	5.0	75.1

（注）上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度のキャッシュ・フローにつきましては、営業活動により544,393千円増加、投資活動により201,304千円減少、財務活動により59,994千円減少した結果、現金及び現金同等物は283,093千円増加し、期末残高は2,022,441千円（前年同期比116.3%）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動は、増加要因として、主に税金等調整前当期純利益が232,535千円、減価償却費が290,525千円であったこと等により、営業活動全体として前年同期と比べ78,825千円増加し、544,393千円（前年同期比116.9%）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動は、無形固定資産の取得による支出が199,925千円、定期預金の払戻による収入が300,219千円、定期預金の預入による支出が200,567千円であったこと等により、投資活動全体として前年同期と比べ支出が255,362千円減少し、201,304千円（前年同期比44.1%）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動は、長期借入金の返済による支出が58,881千円であったこと等により、財務活動全体として59,994千円（前年同期比 - %）となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

(2) 受注状況

当社グループでは、概ね受注から納品までの期間が短く、受注管理を行う必要性が乏しいため記載を省略しております。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	前年同期比(%)
与信管理サービス等(千円)	1,494,090	93.9
ビジネスポータルサイト(グループウェア サービス等)(千円)(注)3	505,464	103.8
BPOサービス(千円)(注)4	245,933	228.7
報告セグメント計(千円)	2,245,488	102.7
その他(千円)(注)5	215,658	-
合計(千円)	2,461,146	112.6

(注)1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. インターネットを活用したグループウェアを中心として提供する中堅・中小企業向けビジネスポータルサイト「J-MOTTO(ジェイモット)」を利用できる会員向けサービス

4. デジタルデータ化サービス等を中心としたビジネス・プロセス・アウトソーシング(BPO)サービス

5. 「教育関連事業」等を含むその他サービス

3【対処すべき課題】

(1) 第3次中期経営計画（2011～2013年度）

当社グループは、創立10周年を迎える節目を契機として、規模拡大を維持しつつも利益重視の徹底を行い、さらに強固な経営基盤を確立すべく、平成20年度に3ヵ年中期経営計画「To the next 10」を策定し、目標達成に向けて邁進してまいりましたが、長引く不況の影響を受け、主要目標連結数値を達成することができませんでした。一方、与信管理サービス事業、ビジネスポータル事業、BPO事業からなる主要3事業が、各事業別に戦略的取り組みを行い、それぞれの収益の基盤の整備に目処が立ちました。また、サイバックス株式会社及び日本アウトソース株式会社の子会社化、株式会社クレメンテックへの資本提携及び株式会社エフアンドエムとの業務提携により、当連結会計年度までに事業ネットワークの拡大やグループの事業基盤の強化を実現しました。

当社グループは、「顧客を大切に共に繁栄しよう」並びに「プロフェッショナリズムを繁栄の源泉にしよう」を企業理念に置き、事業を取り巻く厳しい環境を踏まえ「第3次中期経営計画（2011～2013年度）」を策定いたしました。当社グループでは、社会的貢献及び企業価値の源泉を十分に理解し、短期的な収益の確保のみならず中長期的な視野に立ち、以下に掲げる全体的な基本方針並びに事業別の基本方針に沿った取り組みを遂行していくことで、当社を支える様々な関係者を含んだ当社の本源的な企業価値及び株主共同の利益の継続的な維持・向上に努めてまいります。

（全体的な基本方針）

事業規模について

既存事業の安定的な成長に加えて国内外の事業投資を拡大し、安定的な事業規模を目指します。

投資について

営業キャッシュ・フロー内での運用の中で既存サービスの品質及び顧客満足度を高める投資やセキュリティ強化の投資を行うとともに、新サービスに積極的に投資してまいります。

資本業務提携について

当社グループの中長期的戦略に合致し、企業価値向上に資することが見込まれる案件につきまして、引き続き資本業務提携を検討してまいります。

配当について

当社は、当連結会計年度において、記念配当として1株当たり500円の初配を実施いたしました。今後は、配当性向20%以上を目安に安定的な配当を目指してまいります。

（事業別の基本方針）

与信管理サービス事業

BPOサービス事業での業務請負運営ノウハウ及びシステムの管理運営ノウハウを総合し、会社設立来標榜としている「あなたの会社のe-審査部」（与信管理アウトソーシング事業）への足がかりといたします。収益性の安定成長を最優先課題とし、独自データベースの構築やソフトウェア投資水準の適正化により固定費を圧縮することで、限界利益率の向上を図ります。

ビジネスポータル事業

事業の核であるグループウェアは広く一般的に利用されているソフトウェア及びハードウェアとの連携を強化することで安定成長を目指します。また、ポータル事業としての深化と強化を実現し、サービスの浸透度を深めてまいります。

BPOサービス事業

国内外センターのそれぞれの役割を明確にし、グループ連携と採算管理を徹底することで、グループ全体のコスト削減に貢献いたします。また、業務請負サービスでのシナジーを追求してまいります。

その他事業

教育関連事業では、教育事業部を新設することにより、資格事業、研修事業及びeラーニング事業を集約し、戦略的取り組みを実施いたします。また、新規開発投資の再開及び事業の挺入れを行い、継続的に利益が出る事業基盤づくりに注力いたします。

(2) 対処すべき課題

当社は、「顧客を大切にしてい共に繁栄しよう」を企業使命として、事業を通じて、取引先の満足度を高め、多様化するニーズに対して、「プロフェッショナルな商品及びサービスを提供」し続ける企業を目指しております。

当連結会計年度において、当社グループが対処すべき課題について、従来から推進してきた方向性においての重要な変更はございません。当社グループは、短期的な収益の確保のみならず中長期的な視野に立ち、当社を支える様々な関係者を含んだ当社の本源的な企業価値及び株主共同の利益を継続的に維持・向上させるために、事業別に戦略的取り組みを実施することで中長期的な経営戦略を具現化し企業価値を高めるとともに、様々なリスク要因の経営への影響を最小化すべく、引き続き是正及び予防措置を講じてまいります。

当社グループが従来より取り組んでおります課題は以下のとおりであります。

会員に対するサービスの浸透度合いについて

当社は、入会後の会員に対するサービスの浸透度合いを高めていくことが重要であると認識しております。

その実現に向けた取り組みとして、既存サービスへの追加投資を行い顧客満足度を高める等サービスの一層の拡充を図る施策を行うと同時に、既会員企業と緊密な関係構築を行う専門部隊を増員し対応してまいります。

システム障害の防止と対応について

当社グループの業務及び提供するサービスは、独自に開発したシステム「RM2 Navi System」によって大部分が運営されております。

このシステムの安定的運用が経営上最も重要であると認識しております。

具体的には、効率的なキャパシティ管理、二重化構成、24時間監視、バックアップシステム等の施策を行うことにより、かかる障害の発生に伴う混乱及び損害発生を軽減に努めております。

さらに、障害発生時の緊急時対応計画手順書及び事業継続計画の整備や復旧訓練を実施しております。

低コスト構造の維持

当社は、独自に開発したシステム「RM2 Navi System」と少数精鋭による効率的な業務運営に努めております。今後も当社は、業務拡大に伴うシステム投資や人員補強等の経営資源の増強を行うことが必要となりますが、引き続きグループ内での業務フローの共通化を進め、少数精鋭による低コストオペレーションを維持し、収益獲得のための体制をさらに強化してまいります。

(3) 株式会社の支配に関する基本方針について

1. 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針（以下「基本方針」という。）の概要

当社グループの事業内容は、当社が独自に開発したシステム「RM2 Navi System」を利用して、企業信用情報提供会社の有する約250万社の企業情報の信用力を定量化し、インターネット経由で与信情報を提供する「与信管理サービス事業」、インターネットを活用したグループウェアを中心として提供する、中堅・中小企業向けビジネスポータルサイト「J-MOTTO（ジェイモット）」の運営及びホスティングサービス等を行う「ビジネスポータル事業」、マーケティング業務の効率化及びデジタルデータ化ソリューションを行う「ビジネス・プロセス・アウトソーシング（BPO）サービス事業（以下「BPOサービス事業」という。）」、教育関連事業を含むその他事業の4本に大別することができます。

上記～の事業等を支える当社の企業価値の源泉は、（ ）国内最大級のデータベースに、当社独自の与信管理ノウハウを融合し組成した付加価値情報を提供するサービスの開発力や、（ ）ASPサービスプロバイダーとして、会員企業様に間断なく高品質の情報を提供するため、安定的な事業活動を支えるシステムの運用体制、（ ）会員企業様の利便性やユーザビリティの向上を追求し続けるソフト部門等のシステムの開発力、（ ）与信管理やシステムの運営管理のノウハウやBPOサービス事業で培った業務請負ノウハウ、（ ）企業理念を継承し、ノウハウや専門知識を有し一丸となって業務を遂行する当社従業員の存在、（ ）当社グループの各サービスを通じて得られた7,000を超える会員企業様、取引先との間に築いてきた信頼関係にあると考えております。当社の企業価値は、これらが有機的に結合しつつ生み出され、また株主、会員企業様、取引先あるいは全国の中堅・中小企業等様々なステークホルダーによって支えられております。

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の財務及び事業の内容や企業価値の源泉を十分に理解し、当社の企業価値及び株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保・向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。

当社は公開会社であり、当社の株式については株主、投資家の皆様による自由な取引が認められている以上、当社としては、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する判断は、最終的には当社株主の総意に基づき行われるべきものであると考えます。そして、当社は、当社株式について大規模な買付けがなされる場合であっても、これが当社の企業価値及び株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかしながら、株券等の大規模な買付けや買収提案の中には、当社株主の皆様を買収の提案の内容を検討するための十分な情報や時間を提供せずに行われるもの、その目的から見て当社の企業価値又は株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、当社株主の皆様当社株式等の売却を事実上強要するもの、被買収会社を買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との協議・交渉を必要とするものもあり得ます。

当社は、このような当社株主の皆様を買収の提案の内容を検討するための十分な情報や時間を提供せず当社株券等の大規模な買付けや買収提案を行う者ないし当社の企業価値または株主共同の利益に資さない大規模な買付けを行う者が、当社の財務及び事業の方針の決定を支配することは不適切であり、このような者による大規模な買付けや買収提案に対しては必要かつ相当な対抗措置を講じることにより、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

2. 基本方針の実現に資する特別な取り組み

(1) 企業価値向上等のための施策

中長期的な経営戦略

当社グループは、平成20年5月に策定した3ヵ年中期経営計画「To the next 10」の期間を終え、新3ヶ年計画「第3次中期経営計画（2011～2013年度）」を策定いたしました。

当社は、上記1.の基本方針の実現のために、前掲「(1)第3次中期経営計画（2011～2013年度）」に記載の各基本指針に沿った取り組みを行うことにより、当社の企業価値及び株主共同の利益の更なる向上に努めてまいります。

コーポレート・ガバナンスの強化

当社は、法令遵守はもとより、広く企業に求められる社会規範、倫理観を尊重し、公正で適切な経営を目指し、直接の顧客はもとより株主をはじめとするステークホルダーの方々に対して社会的責任を全うすることを経営上の最大の目標としております。この目標達成の手段としてコーポレート・ガバナンスを捉え、経営の効率性、社会性の両面を総合的に判断し、迅速に対応できる企業統治体制の構築に努めております。

当社の財務及び事業活動等の経営に関する業務は、当社の最高意思決定機関である株主総会において、当社株主の総意で信任された取締役がこれを執り行っております。当社取締役会は社外取締役1名を含む3名で構成され、迅速な経営の意思決定と機動的な業務執行が可能な状態にあり、取締役の役割・責任も明確化が図られております。また、監査役監査については3名全員の監査役が社外監査役であり、取締役会はもとより、その他重要会議にも出席し、取締役の職務執行状況を監査するとともに、会計監査人とも緊密な連携を保ち、監査の透明性、客観性を高めた監査を実施することにより、業務の適正性を確保しております。

なお、当社は、一般株主と利益相反の生じるおそれがないものとして大阪証券取引所の定める基準に適合する社外取締役1名及び社外監査役3名を独立役員として選任し、一般株主の利益が害されることがないように、独立性の高い役員による当社経営に対する監視・監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を図っております。

以上のとおり、現経営陣は、当社の企業価値及び株主共同の利益の最大化を目指し、日々の経営に当たっております。

(2) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み

当社は、上記1.に記載した基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みとして、平成23年5月13日開催の取締役会において、「当社が発行者である株式等の大量買付けに関する規則（買収防衛策）」（以下「本規則」という。）の継続を決議し、本規則について、平成23年6月24日開催の第11回定時株主総会に付議し、承認可決されました。

当社との合意がないままに、当社経営権の取得や支配権の変動あるいは当社の財務及び事業活動の支配または影響力の行使を目的として、当社が発行者である株券等（以下「当社の株券等」という。）を15%以上取得し保有者となる行為またはその提案（以下「大量買付け」といい、大量買付けを行う者を「大量買付け者」という。）が、大量買付け者によって行われる場合に、当該大量買付けにいかなる対応を行うべきかについて、公正で透明性の高い手続きを設定することを目的としております。

大量買付けが行われる場合に、当社株主の皆様のご意思を適正に反映させるためには、まず当社株主の皆様が適切な判断を行うことができる状況を確認する必要があります。そのためには、当社取締役会が当該大量買付けについて迅速かつ誠実な調査を行った上で、当社株主の皆様に対して必要かつ十分な判断材料（当社取締役会による代替案を含む。）を提供する必要があるものと考えております。また、他方で、大量買付けが行われた際に、その時点における当社取締役の自己保身等の恣意的判断が入ることを防ぐために、当社株主の皆様のご意思を確認するための手続きや当社取締役会による対抗措置が発動される場合の手続き等をあらかじめ明確化しておくことも必要であると考えており、本規則において、大量買付けが行われた場合に大量買付け者や当社取締役会が遵守すべき手続き、当社株主の皆様のご意思を確認するための手続き等を客観的かつ具体的に定めております。

本規則の概要は以下のとおりです。なお、本規則（「附則 1．情報開示を求める事項」及び「附則 2．新株予約権の概要」）を含みます。）の詳細につきましては、平成23年5月13日付当社プレスリリース「当社が発行者である株式等の大量買付けに関する規則（買収防衛策）」の継続に関するお知らせ（当社ウェブサイト（アドレス：<http://www.riskmonster.co.jp/>）に掲載しております。）をご覧ください。

大量買付けに関する手続き

大量買付け者及びそのグループ等が、当社との合意がないままに、大量買付けを行おうとする場合には、当該大量買付けの実施に先立って、本規則に定める大量買付け提案書等を当社取締役会宛に提出していただきます。

大量買付け者及びそのグループ等から提出された大量買付け提案書等については、（イ）形式的に不備がなく、不正確なものではないこと、（ロ）かかる大量買付けの方法の適法性について日本国内の弁護士による意見書が提出されていること、（ハ）「附則 1．情報開示を求める事項」として十分であること、の各要件が充足されている（上記（イ）～（ハ）の全ての要件を充足するものを、以下「適正開示情報」という。）か否かについて、確認を行います。その上で、当社取締役会は、これを受けて、当該大量買付け提案書等の内容が本規則に照らし、不十分であると判断した場合には、大量買付け者及びそのグループ等に対し、適宜回答期限を定めた上、追加的に情報及び資料を提供または提出するよう求めることがあります。この場合、大量買付け者及びそのグループ等においては、当該期限までにかかる情報及び資料を当社取締役会に追加的に提供しなければならないものとします。

当社取締役会が、当該大量買付け提案書等の内容が適正開示情報であると判断した場合、当社取締役会はその旨を公表し、下記 に定める検討期間において、当該大量買付けが、下記 に定める適正買付け提案に該当するかどうかについて検討するものとします。かかる検討にあたっては、当社取締役会が取締役としての責務である善管注意義務及び忠実義務に従って、当社とは独立した専門家（弁護士、公認会計士、フィナンシャルアドバイザー、コンサルタント、投資銀行、証券会社等を含み、以下「外部専門家」という。）との協議またはその助言に基づいて誠実かつ慎重に行うものとします。

検討の結果、当社取締役会が、大量買付けが本規則に定める下記 の適正買付け提案の要件を満たしていないと判断した場合には、下記 にその概要を定める新株予約権（以下「本新株予約権」という。）の無償割当てを行うものとします。当社取締役会が、大量買付けが本規則に定める適正買付け提案としての要件を満たしていると判断した場合には、当該大量買付けが当社の企業価値及び株主共同の利益の最大化に資すると認められる場合を除き、本規則に定める手続きに従って本新株予約権の無償割当てを実施するかどうかについて、下記 に定める株主意思確認決議の手続きを行います。

また、大量買付け者及びそのグループ等が、本規則に従わずに大量買付けを行う場合には、当社取締役会は、当該大量買付けについて、外部専門家との協議またはその助言に基づいて検討し、その結果、本規則に定める適正買付け提案の要件を満たさないと判断した場合には、大量買付け者が本規則に従わないことを確認した上で、本新株予約権の無償割当てを実施することがあります。

適正買付け提案の要件

大量買付けが、本規則に定める適正買付け提案とされるためには、次の（イ）～（ホ）のすべての要件を満たしている必要があります。（イ）当社経営権の取得または会社支配権の変動を目的とする大量買付けであること、（ロ）公開買付けまたは当社の株主が平等に当社の株券等を売却する機会が与えられているその他の方法による大量買付けであること、（ハ）大量買付けに先立って大量買付け者が当社取締役会に提出する大量買付け提案書等が適正開示情報の要件を充足していること、（ニ）下記 の株主意思確認決議の手続きがなされるまで、公開買付けの開始またはその他の方法による大量買付けに着手しないこと、（ホ）本規則で明示的に定めた当社の企業価値または株主共同の利益を毀損するような濫用目的をもってなされる提案類型でないこと。ここで、濫用目的をもってなされる提案類型とは、いわゆる（ ）グリーンメイラーである場合、（ ）焦土化経営目的である場合、（ ）資産等流用目的である場合、（ ）配当・高値売り抜け目的である場合、（ ）二段階以上の強圧的な買付け提案である場合、（ ）大量買付け者及びそのグループ等が真摯に合理的な経営を目指すものではなく当社または当社株主に回復し難い損害をもたらすと信じるに足る合理的な根拠が認められる場合、（ ）法令または定款に違反しもしくは本規則を遵守しないことが

客観的かつ合理的に認められる場合、()大量買付け者及びそのグループ等が反社会的勢力等公序良俗の観点から当社の支配株主として不適切であると合理的に認められる場合の其々を言います。これらについては、当社取締役会が、外部専門家との協議またはその助言に基づいて、その該当性の合理的根拠等の有無を誠実かつ慎重に検討し判断いたします。

検討期間の定め

大量買付け者及びそのグループ等から提出された適正開示情報につきましては、当社株主が大量買付けに関し、適正かつ十分な情報に基づいて、適切かつ合理的な判断が行えるように、当社取締役会が外部専門家との協議またはその助言を得て、誠実かつ慎重な調査・検討を行います。このための検討期間として、当社取締役会が適正開示情報を受領した日から3日以内に適正開示情報受領日を公表し、当該日を起算日として、適正買付け提案が全株式を対象とする全額現金(円貨)対価の公開買付けによる場合は60日以内、それ以外の場合は90日以内と明確に定めております。

なお、当社取締役会が受領した適正開示情報につきましては、当該大量買付けに関連し、当社の企業価値または株主共同の利益を維持し向上させる目的で使用いたします。

株主意思確認決議の手続き

大量買付けが本規則に定める適正買付け提案の要件を満たしていると当社取締役会が判断した場合には、当該大量買付けが当社の企業価値及び株式共同利益の最大化に資すると認められる場合を除き、かかる大量買付けに関して本新株予約権の無償割当てを実施すべきか否かについて、当社株主の皆様方の意思を確認する決議(以下「株主意思確認決議」という。)を実施いたします。

当社は、株主意思確認決議において本新株予約権の無償割当てを実施することについて賛同が得られた場合には、本規則に従い本新株予約権の無償割当てを行います。他方、株主意思確認決議において本新株予約権の無償割当ての実施が否決された場合には、当該株主意思確認決議の手続きを実施する前提となった条件に従って大量買付けが行われる限り、当該大量買付けに関し本新株予約権の無償割当てを行いません。

本新株予約権の概要

株主意思確認決議または当社取締役会の決議により本新株予約権の無償割当ての実施が決定された場合、本新株予約権が当社株主(ただし、当社を除く。)の皆様に対して無償で割当てられます。本新株予約権は、当社取締役会が別途定める一定の日(以下「割当基準日」という。)における当社の最終の株主名簿に記載された株主(ただし、当社を除く。)の皆様に対し、保有する当社普通株式1株につき1個の割合で割当てられます。

新株予約権者は、権利行使期間内に行使価額相当の金銭(発行される当社普通株式1株につき1円を下限とし当社株式1株の時価の2分の1の金額を上限とする金額の範囲内で本新株予約権の無償割当てに関する決議において別途定める価額)を払込むことにより権利行使ができますが、大量買付け者及びそのグループ等はこの権利を行使することはできません。

本新株予約権には、譲渡制限が付されており、当社株主の皆様(大量買付け者及びそのグループ等を含む。)が譲渡をご希望する場合には、当社取締役会の承諾が必要となります。

また、本新株予約権には取得条項が付されており、当社は取得条項に基づいて、(イ)新株予約権無償割当て決議後に大量買付けが撤回された場合等に無償で本新株予約権を取得する場合や(ロ)大量買付け者及びそのグループ等以外の新株予約権者に対し、対価として当社普通株式を交付することによって、本新株予約権を取得する場合があります。なお、新株予約権証券は発行されません。

3. 以上の取り組みに関する取締役会の判断及び判断理由

(1) 企業価値向上等のための施策について

当社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上のためには、会員企業様を増加させていくことによる持続的成長の実現が必要不可欠であり、それを実現させるためにはインフラ整備等のための健全で強固な財務体質の継続的維持も重要と考えられることから、前述の中長期的な経営戦略を策定し遂行に努めております。また、コーポレート・ガバナンスは、経営の効率性・社会性の両面を総合的に判断し、迅速に対応するために重要であり、その強化に努めております。

これらの取り組みは、当社企業価値及び株主共同の利益を確保・向上させるものと考えております。

(2) 不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みについて

本規則は、大量買付けが行われた場合に、当社株主の皆様を適正に反映させるために、当社株主の皆様が適切な判断を行うことができる状況を確認するためのものです。その内容は、当社取締役会が当該大量買付けについて迅速かつ誠実な調査を行った上で、当社株主の皆様に必要なかつ十分な判断材料を提供すること、その時点における当社取締役の自己保身等の恣意的判断が入らないよう、当社とは独立した第三者である外部専門家との協議や助言に基づいて迅速かつ誠実に検討することなどの手続きを予め明確に定めるものです。

また、本規則は、(ア)当社の株主総会において、株主に対する本新株予約権の無償割当てに関する事項の決定についての取締役会への委任を撤回する旨の決議が行われた時、(イ)当社取締役会により本規則の廃止が決定された時、(ウ)本総会終結の時から2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時に廃止されるなど、株主の皆様が意思が反映されるよう規定されております。以上により、この取り組みは基本方針に沿うものであり、当社企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に合致し、当社役員の地位の維持を目的とするものではないものと考えております。

4【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資判断上、あるいは、当社グループの事業活動を理解する上で重要であると考えられる事項については、投資者に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。また、以下の記載はすべてのリスク要因を網羅するものではありませんので、この点ご留意ください。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(現在の事業内容に関するリスクについて)

株式会社東京商工リサーチへの依存度について

当社グループの事業において、企業情報のデータベースの質、量、継続利用性は当社グループの事業を継続する上で不可欠なものとなっております。当社グループは設立以来、当社株主でもある株式会社東京商工リサーチの有する企業データベースを利用してありますが、当連結会計年度において当社グループの情報利用料全体に占める割合は89.5%であります。同社とは中長期的な成長と事業戦略等を視野に入れ、両社が相互のビジネスを発展させることを目的に、「業務提携契約書」及び「企業情報の取扱いに関する基本契約書」を締結し、設立以来、長期契約を更新しております。当連結会計年度末現在、同社は当社株式の8.0%を保有し当社の筆頭株主となっております。今後も継続的に保有する意向であります。また、当社グループは、同社との間に今後も良好な関係を維持するための関係を構築しております。しかしながら、何らかの理由により当該情報利用契約が継続されない場合は、当社グループの事業の継続性に極めて重大な影響を及ぼす可能性があります。

A S Pサービスへの依存及び収益構造について

当社グループは、現在のところ、インターネットを利用したA S Pサービスが主な事業となっております。当連結会計年度よりB P O事業の日本アウトソース株式会社及びその他事業のサイバックス株式会社を子会社化したものの、当連結会計年度の与信管理サービス事業及びビジネスポータル事業を含むA S Pサービスの売上高の合計が売上高全体に占める割合は71.8%と高比率となっております。A S Pサービスの収益は、新規獲得会員及び総会員数の推移、会員の退会率の推移、各会員企業の利用料金等により大きな影響を受けます。また、新規A S Pサービスのための先行投資等の費用が発生する場合、一時的な当社の収益を悪化させる要因となり、経営状況その他に重要な影響を及ぼす恐れがあります。今後も引き続き、当該事業以外からの収益確保を目標に掲げ、A S Pサービスを核としつつ、業務提携や周辺ビジネスへの取り組み等を積極的に展開してまいります。

顧客情報の流出の可能性及び影響について

当社グループでは、会員企業に係る情報及びその他企業情報等多くの機密情報を扱っており、情報の取扱いには細心の注意を払っております。情報の取扱いに係わる社内規程の整備、定期的な社員教育の実施、システムのセキュリティ強化、情報取扱い状況の内部監査等を推進するとともに、「ISO/IEC27001」(注)認証の取得等、会員企業の情報管理の強化に努めておりますが、万一、外部からの不正アクセスや社内管理体制の瑕疵等による情報の外部流出が発生した場合、当社グループへの損害賠償請求や社会的信用の失墜により、業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(注) ISO/IEC27001

企業の情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) が、国際標準規格であるISO/IEC27001に準拠していることを認定する評価制度

システム障害について

当社グループでは、耐震性・防火性に優れた建物に機器等を設置し、24時間365日でのシステム稼動状況監視、電源及びシステムの二重化、外部からの不正侵入を検知する装置の導入、システムの大規模障害を想定した定期的な復旧テストの実施、システム運用規程の整備、システム運用に関する内部監査を行うとともに「ISO/IEC20000 (ITサービスマネジメントシステム)」(注) 認証取得等の対策を実施しております。しかしながら、当社グループの事業においてインターネットを利用することによる外部からの不正な手段による通信の妨害、基幹通信ネットワークの障害、ネットワーク・サーバー等の機器動作不良、プログラムの動作不良、自然災害等の不測の事態が生じた場合、当社グループの事業に影響を及ぼす可能性があります。

(注) ISO/IEC20000 (ITサービスマネジメントシステム)

ITを使用してサービスを提供する組織が、サービス品質及び顧客満足度向上のためにP・D・C・A (Plan・Do・Check・Act) サイクルを用いて継続的にサービス及びシステム運用を改善するための仕組み

(競合について)

当社グループは、インターネットを利用して、格付付与及び与信限度額の提供等の与信管理サービス事業を行っております。同様のサービスを行う企業は数社存在いたしますが、現時点は当社グループの事業領域において先行者メリットを十分に享受し優位性を確保していると認識しております。しかし、当該事業は参入障壁が低く、新規参入者は増加すると予想されるため、例えば大手の企業信用情報提供会社等、競合他社の出現による会員企業数の減少及び競争激化等による収益性悪化により、当社グループの業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(サービスの陳腐化について)

インターネット関連技術及びそのビジネスモデルは変化が速いため、インターネットを積極的に利用している事業者は一定水準のサービスの提供を維持するためには、技術革新及びビジネスモデルの変化に積極的かつ柔軟に対応していく努力が必要であり、主として「RM2 Navi System」の機能追加及びセキュリティ強化のためのハードウェア増設等への積極的な投資を計画しております。このように、当社グループは今後も不断な経営努力を行っていく方針ですが、新サービス導入または既存サービス強化のために必要な新しい技術及びビジネスモデルを何らかの理由で適時かつ効果的に採用・応用できない可能性があります。また、新しいインターネット関連技術及びビジネスモデルの変化への対応には、相当の時間と費用が必要となる可能性があります。そのような状況が現出した場合には、当社グループの業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(新規事業に伴うリスクについて)

現在、当社グループは、これまでの与信管理サービス事業から得たノウハウを活用し、新規事業を展開していく方針であります。しかしながら、当社グループとしては、未経験分野もあり、不確定要素があることも否めません。これらの新規事業展開、業務提携に何らかの支障が発生する場合、あるいは予想以上の投資コストが必要になる場合等、現状では予測し得ない事態が発生する可能性は否定できず、かかる事態が発生した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

また、当社は、当社が出資する子会社等と協業し、相乗効果を発揮するため、必要に応じて当社役員及び当社従業員が子会社等の役員を兼任し、また当社からの従業員の出向を行う場合があります。しかしながら、当社事業と子会社等の事業に競合が生じた場合やその他の事由により、当社事業において相乗効果が発揮または期待できなくなる可能性があります。そのような場合には、当社役員及び従業員が役員を兼任、出向しているにも係わらず、当社事業の経営成績及び財政状況に影響が及ぶ可能性があります。

(知的財産権について)

当社グループはこれまで、著作権法を含めた知的財産権に関して他社の知的財産権を侵害したとして、損害賠償や使用差止の請求を受けたことはありません。当社グループでは知的財産権の侵害を行っていないものと認識しておりますが、当社グループの事業分野における知的財産権の現況を完全に把握することは困難であり、当社グループが把握できていないところで他社が特許権等を保有している可能性は否めません。また、今後当社グループの事業分野における第三者の特許権が新たに成立し、損害賠償または使用差止等の請求を受ける可能性はあり、その場合当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(その他)

新株予約権（ストックオプション）の付与について

当社では、社員の業績向上に対する意欲や士気を高め、また優秀な人材を獲得する目的で新株予約権を付与しております。当連結会計年度末現在、新株予約権による潜在株式総数は1,235株であり、これらの新株予約権が全て行使された場合、発行済株式総数の3.1%にあたります。今後も将来にわたって当社の成長に大きな貢献が期待できる社員には、新株予約権の付与を行っていく方針であります。付与された新株予約権の行使により発行された新株は、将来的に当社株式価値の希薄化や株式売上の需給への影響をもたらす、当社株価形成へ影響を及ぼす可能性があります。

配当政策について

当社は、IT業界特有の急激な技術革新とスピードに迅速かつ柔軟に対応すべく、設立以来、将来の設備投資に備え、内部留保の充実を最優先課題として取り組んでまいりました。同時に、株主に対する利益還元も重要な課題であるとの認識にたち、平成22年9月に創立10周年を迎えましたことに対し株主の皆様へ感謝の意を表すため、記念配当として、当連結会計年度において1株当たり500円の配当（初配）を実施いたしました。

今後も継続的かつ安定的な配当の実現を目指しますが、当社を取り巻く経済環境及び経営成績の悪化により、継続的に配当を実施できない可能性があります。

人材について

当社は、当連結会計年度末現在において取締役3名（うち非常勤1名）、監査役3名（うち非常勤2名）及び従業員が連結で99名、個別で57名と小規模であり、内部管理体制もこの規模に応じたものになっております。今後、事業拡大に伴い、積極的な採用活動を行っていくとともに、従業員の育成に取り組み、人員の増強を進め、内部管理体制の一層の拡充を図る方針であります。しかしながら、優秀な人材をタイムリーに獲得することは容易ではなく、必要な人材を採用できない、あるいは採用が遅れた場合は、適切かつ十分な組織対応ができず、効率的な事業運営に支障をきたす可能性があります。または、人材を採用し人材育成ができなかった場合や、各部署において相当数の社員が、短期間のうちに退職した場合も、事業運営に悪影響を及ぼす可能性があります。

訴訟について

当社グループの情報販売（格付情報）は「企業の格付けをする」という観点から、その格付情報を不服として、格付対象企業より訴訟を起こされる可能性があります。当社グループのサービス利用においては、会員企業との間に守秘義務契約があり、第三者からの格付情報を不服とする訴訟については、契約上起こる可能性は少ないと考えますが、訴訟という事態になり係争が長期化する場合には、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

契約会社名	相手先の名称	契約の名称	契約内容	契約期間
提出会社	株式会社東京商工リサーチ	業務提携契約書	双方の収益の拡大を目指し、相互のビジネスを発展させるための取り決め	平成21年6月24日から 平成24年6月23日まで (以降、1年毎に自動更新)
		企業情報の取扱いに関する基本契約書	企業情報関連サービスの取扱いに関する基本事項等	平成21年4月1日から 平成24年3月31日まで (以降、1年毎に自動更新)

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積もり

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、資産・負債及び収益・費用の報告数値及び開示に影響を与える見積りや判断を行う必要があります。これらの判断及び見積りを過去の実績や状況に応じ合理的に行っておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

(2) 経営成績の分析

売上高の分析

与信管理サービス等の売上高は、1,496,009千円（前年同期比94.0%）となりました。ポートフォリオサービス及びマーケティングサービスの売上高が119,173千円と順調に推移したものの、長引く景気低迷による経費削減対策の影響を受け、利用件数が落ち込んだこと等により、主力のASPサービスの売上高は1,332,322千円となりました。

一方、増加要因といたしましては、ビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）の売上高が506,742千円（前年同期比103.7%）と順調に推移しました。また、連結子会社リスモン・マッスル・データ株式会社が平成23年1月に日本アウトソース株式会社の全株式を取得したこと等により、BPOサービスの売上高が280,986千円（前年同期比210.5%）となり、平成22年5月に教育関連事業を主力とするサイバックス株式会社の株式を追加取得し子会社化したことにより、その他サービスの売上高が217,492千円（前年同期比 - %）となりました。その結果、当連結会計年度の売上高は2,461,146千円（前年同期比112.6%）となりました。

収益の分析

当連結会計年度の売上総利益は1,361,371千円（前年同期比105.6%）、対売上比55.3%（前年同期は59.0%）、営業利益は238,398千円（前年同期比106.4%）、対売上比9.7%（前年同期は10.2%）、経常利益は240,159千円（前年同期比107.0%）、対売上比9.8%（前年同期は10.3%）となりました。これは、長引く景気低迷の影響を受け与信管理サービス等のセグメント利益が160,408千円（前年同期比95.3%）と減少したものの、平成23年1月に日本アウトソース株式会社を子会社化したことや、ビジネスポータルサイト（グループウェアサービス等）のセグメント利益が100,330千円（前年同期比103.0%）と堅調に推移したこと等によるものです。

当期純利益は124,166千円（前年同期比75.1%）、対売上比5.0%（前年同期は7.6%）となりました。これは、前連結会計年度は過年度に計上した投資有価証券評価損等が税務上の損失計上の要件を満たし税金費用が軽減いたしました。当連結会計年度は子会社の繰越欠損金が解消されたこと等から課税所得が増加したことに伴い税金費用も大幅に増加したことによるものです。

(3) 財政状態の分析

当連結会計年度末の流動資産は2,544,572千円（前年同期比111.0%）、固定資産は1,202,811千円（前年同期比117.9%）となり、資産合計は前年同期と比べ434,163千円増加し、3,747,383千円（前年同期比113.1%）となりました。

流動負債は452,185千円（前年同期比182.7%）、固定負債は73,497千円（前年同期比 - %）、負債合計は前年同期と比べ278,237千円増加し、525,682千円（前年同期比212.4%）となりました。

これらは主に、サイバックス株式会社及び日本アウトソース株式会社を子会社化したことに伴うものです。

純資産は、株主資本が124,166千円増加したこと等により、前年同期と比べ155,925千円増加し、3,221,701千円（前年同期比105.1%）となりました。また、自己資本比率は84.8%となりました。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資本の財源及び資金の流動性についての分析は、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 1 業績等の概要(2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

なお、キャッシュ・フロー指標のトレンドは、以下のとおりであります。

	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期
自己資本比率(%)	92.6	89.6	91.4	91.9	84.8
時価ベースの自己資本比率(%)	170.8	53.8	74.8	59.2	49.2
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	-	-	-	-	0.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	-	-	-	-	198.8

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

(注) 1. いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

2. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

3. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

4. 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利払いは連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を利用しております。

5. 平成19年3月期、平成20年3月期、平成21年3月期及び平成22年3月期につきましては、有利子負債及び利払いがないため、キャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオは記載しておりません。

(5) 経営戦略の現状と見通し

当社グループは、平成20年5月に策定した3カ年中期経営計画「To the next 10」の期間を経て、平成23年度から平成25年度の新3カ年計画「第3次中期経営計画(2011~2013年度)」を策定いたしました。

新3カ年計画「第3次中期経営計画(2011~2013年度)」では、既存事業の強化を図りながら、新サービス等への積極的な投資を行うことで、安定的な事業規模を目指し、長期的な企業価値及び株主共同の利益の継続的な維持・向上に努めてまいります。

なお、「第3次中期経営計画(2011~2013年度)」の詳細につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 対処すべき課題」に記載のとおりであります。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針についての詳細につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 対処すべき課題」に記載のとおりであります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の総額は331,157千円であり、セグメント別の設備投資の概要を示すと以下のとおりであります。なお、当連結会計年度において重要な設備の除却または売却等はありません。

セグメントの名称	内容	当連結会計年度
与信管理サービス等	システムサーバー増強等	12,436千円
	サービス基幹ソフトウェア増強等	143,538千円
ビジネスポータルサイト	システムサーバー増強等	48,418千円
	サービス基幹ソフトウェア増強等	32,657千円

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

当社における主要な設備は以下のとおりであります。

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				合計	従業員数 (人)
			建物 及び構築物	工具、器具 及び備品	ソフトウエ ア	その他		
本社 (東京都千代田区)	与信管理 サービス等	統括業務 施設	37,411	51,893	409,742	27,431	526,478	49 (15)

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、建設仮勘定及びソフトウェア仮勘定であります。

3. 本社建物は賃借しており、年間賃借料は79,837千円であります。

4. 従業員数は就業人員(当社から他社への出向者を除く。)であり、()は外数で臨時雇用者の年間の平均人数であります。

(2) 国内子会社

重要な設備はありません。

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度における当社グループの設備投資の計画は以下のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

会社名事業 所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定 年月		完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
提出会社 本社	東京都 千代田区	与信管理 サービス 等	「RM2 Navi System」等の 増強及び機能 追加	100,000	-	自己資金	平成23年 4月	平成24年 3月	-
提出会社 本社	東京都 千代田区	与信管理 サービス 等	基幹システム のセキュリティ 運用強化	40,000	-	自己資金	平成23年 4月	平成24年 3月	-

(注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

2. 完成後の増加能力についての記載は困難なため、省略しております。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	152,316
計	152,316

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	40,383	40,383	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は、単元株制 度は採用してお りません。
計	40,383	40,383	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

旧商法に基づき発行した新株予約権は次のとおりであります。

	第1回新株予約権		第2回新株予約権	
	事業年度末現在 (平成23年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成23年5月31日)	事業年度末現在 (平成23年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成23年5月31日)
新株予約権の数(個)	342	336	26	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	1,026 (注)1、3、8	1,008 (注)1、3、8	78 (注)1、3、8	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	53,334 (注)4、8	同左	53,334 (注)4、8	同左
新株予約権の行使期間	自平成18年7月2日 至平成26年6月29日 (注)2	同左	自平成18年7月2日 至平成26年6月29日 (注)2	同左
新株予約権の行使により株式を発行す る場合の株式の発行価格及び資本組入 額(円)	発行価格 53,334 資本組入額 26,667 (注)8	同左	発行価格 53,334 資本組入額 26,667 (注)8	同左
新株予約権の行使の条件	(注)5、6	同左	(注)5、6	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)7	同左	(注)7	同左
代用払込みに関する事項	-	-	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交 付に関する事項	-	-	-	-

- (注)1. 新株予約権の目的となる株式の数は、定時株主総会決議における新株発行予定数から、退職等の理由により権利を喪失した者の新株予約権の目的となる株式の数を減じております。
2. 新株予約権の行使期間は、取締役会による新株予約権の発行決議において、平成16年6月29日定時株主総会で決議された権利行使期間の範囲内で定めております。
3. 当社が新株予約権発行後、株式の分割または併合を行う場合は、新株予約権の目的たる株式数は、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割または併合の比率

また、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式数の調整を行うものとする。

4. 当社が新株予約権発行後、株式の分割または併合を行う場合、行使価額は分割または併合の比率に応じ次の算式により調整されるものとし、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が行使価額を下回る払込金額で新株式の発行または自己株式の処分（新株予約権の行使により新株式を発行する場合を除く。）を行う時は、行使価額は次の算式により調整されるものとし、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \frac{\text{新規発行または処分株式数}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数または処分株式数}} \times \text{1株当たり払込金額または処分価額}}$$

5. 新株予約権の行使の条件

各新株予約権の一部行使はできないものとする。

新株予約権行使期間内であっても、当社株式が証券取引所へ上場されていない、もしくは、店頭市場に公開されていない場合、新株予約権を行使できないものとする。

権利行使期間別の行使可能株数を以下のとおりとする。

新株予約権の割当てを受けた者は、割当てられた新株予約権を次の各号の期間の区分に従い、当該各号に掲げる割合の限度において行使することができる。この場合において、権利を行使することができる本新株予約権に係る株式数が1株の整数倍でない時には、1株式の整数倍に切り上げた数とする。

- 1) 起算日から1年を経過した日までは、権利を割当てられた株式数の3分の1に達するまで権利行使をすることができる。
- 2) 起算日から2年を経過した日までは、権利を割当てられた株式数の3分の2に達するまで権利行使をすることができる。
- 3) 起算日から2年を経過した日の翌日から、平成26年6月29日までは権利を割当てられた株式数のすべてについて権利を行使することができる。

（注1）前項において「起算日」とは、平成18年7月2日もしくは、当社株式が証券取引所へ上場または店頭市場に公開した日の何れか遅い日とする。

（注2）権利付与日以降、未行使の新株予約権の目的たる株式の数の調整が行われた場合は、調整後の株式数により行使可能株式数の判定を行う。

新株予約権の割当てを受けた者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役もしくは従業員の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合にはこの限りではない。

割当てを受けた者が権利行使期間中に死亡した場合、その相続人は1名に限り権利を承継することができる。ただし、再承継はできない。

新株予約権は、発行時に割当てを受けた新株予約権者において、これを行使することを要する。

その他権利行使の条件については、定時株主総会決議及び新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当てを受けた者との間で締結する「新株予約権割当契約」で定めるところによる。

6. 新株予約権の消却事由及び条件

当社が消滅会社となる合併契約書承認の議案、当社が完全子会社となる株式交換契約書承認の議案、または、当社が分割会社となる会社分割についての分割計画書、分割契約書承認の議案（株主総会の承認を要しない会社分割の場合は取締役会決議）並びに株式移転の議案が株主総会で承認された時は、新株予約権は無償で消却することができる。

新株予約権者が権利行使をする前に、当社の取締役、監査役もしくは従業員の地位喪失により新株予約権を行使できなかった場合、当該新株予約権については無償で消却することができる。

7. 新株予約権の譲渡制限

新株予約権を譲渡する時は、取締役会の承認を要する。

8. 平成17年8月19日開催の取締役会決議により、平成17年11月18日付で1株を3株とする株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

会社法に基づき発行した新株予約権は次のとおりであります。

	第6回新株予約権	
	事業年度末現在 (平成23年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成23年5月31日)
新株予約権の数(個)	131	126
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	131 (注)1、2	126 (注)1、2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	51,219 (注)3	同左
新株予約権の行使期間	自平成22年11月29日 至平成27年11月26日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 77,783 資本組入額 38,892 (注)4、5	同左
新株予約権の行使の条件	(注)6、7	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)8	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)9	同左

(注)1. 新株予約権の目的となる株式の数は、取締役会決議における新株発行予定数から、退職等の理由により権利を喪失した者の新株予約権の目的となる株式の数を減じております。

2. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数(以下、「付与株式数」という。)は当社の普通株式1株とする。ただし、付与株式数は、新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

かかる調整は当該時点において未行使の新株予約権の付与株式数についてのみ行われ、調整の結果により生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

また、当社が新株予約権の割当日後、合併、会社分割、株式交換または株式移転を行う場合、株式の無償割当てを行う場合、その他付与株式数について調整を必要と認める場合には、当社は必要と認める株式数の調整を行うことができる。

3. 行使価額の調整は以下のとおりとする。

新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

新株予約権の割当日後、当社が時価を下回る価額で普通株式の発行または普通株式の自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新株式発行前の1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式の総数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」、「払込金額」を「処分価額」と読み替えるものとする。

新株予約権の割当日後、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行う場合、当社が株式交換もしくは株式移転を行う場合、または当社が吸収分割もしくは新設分割を行う場合、株式の無償割当てを行う場合、その他行使価額の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める行使価額の調整を行うことができる。

4. 「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」の発行価格は、公正な評価単価と行使時の払込金額の合計額を記載しております。

5. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときはこれを切り上げる。
増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から、上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
6. 新株予約権の行使条件
新株予約権の割当を受けた者が当社の使用人である場合は、新株予約権行使時においても、当社の使用人であることを要する。ただし、定年による退職その他当社の取締役会で正当な理由があると認められた場合はこの限りではない。
新株予約権の割当を受けた者が死亡した場合、新株予約権の割当を受けた者の相続人は、新株予約権を行使することはできない。
7. 新株予約権の取得事由及び条件
新株予約権の割当を受けた者が前記「新株予約権の行使条件」の規定により新株予約権を行使できなくなった場合は、当社の取締役会が別途定める日に、当社は当該新株予約権を無償で取得することができる。当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、完全子会社となる株式交換契約承認の議案または株式移転計画承認の議案につき、当社の株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は当社の取締役会決議がなされたとき）は、当社の取締役会が別途定める日に、当社は行使されていない新株予約権を無償で取得することができる。
8. 新株予約権の譲渡制限
譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要する。
9. 組織再編行為の際の新株予約権の取扱い
当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日の直前の時点において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
交付する再編対象会社の新株予約権の数
新株予約権の割当を受けた者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、前記「新株予約権の目的となる株式の数」に準じて決定する。
新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案の上、前記「新株予約権の行使時の払込金額」で定められる行使価額を調整して得られる再編後払込金額に上記に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数に乗じて得られる額とする。
新株予約権の権利行使期間
前記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権の権利行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から、前記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権の権利行使期間の末日までとする。
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
前記「新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項」に準じて決定する。
新株予約権の譲渡制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議（再編対象会社が取締役会設置会社でない場合には、「取締役の過半数による決定」とする。）による承認を要する。
新株予約権の行使条件
前記「新株予約権の行使条件」に準じて決定する。
新株予約権の取得事由及び条件
前記「新株予約権の取得事由及び条件」に準じて決定する。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成18年4月1日 ～ 平成19年3月31日 (注1)	693	41,200	18,480	1,102,548	18,480	665,399
平成19年4月1日 ～ 平成20年3月31日 (注1)	183	41,383	4,880	1,107,428	4,880	670,279
平成21年3月31日 (注2)	1,000	40,383	-	1,107,428	-	670,279

(注) 1. ストックオプションの行使による増加であります。
 2. 自己株式の消却による減少であります。

(6) 【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況							計	単元未満 株式の状 況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	2	14	42	8	-	3,099	3,165	-
所有株式数(株)	-	1,387	1,903	14,347	188	-	22,558	40,383	-
所有株式数の割合 (%)	-	3.43	4.71	35.53	0.47	-	55.86	100.00	-

(注) 自己株式1,414株は、「個人その他」に含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社東京商工リサーチ	東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル	3,255	8.06
株式会社ティーケーピー	東京都中央区日本橋茅場町3-7-3 TKPタワー8階	3,056	7.56
NISグループ株式会社	愛媛県松山市千舟町5-7-6	2,500	6.19
和田 成史	東京都千代田区	1,782	4.41
リスクモンスター株式会社	東京都千代田区大手町2-2-1	1,414	3.50
大阪証券金融株式会社	大阪府大阪市中央区北浜2-4-6	1,259	3.11
株式会社エヌアイデイ	千葉県香取市玉造3-1-5	1,200	2.97
株式会社オービックビジネスコン サルタント	東京都新宿区西新宿6-8-1	1,000	2.47
テクマトリックス株式会社	東京都港区高輪4-10-8	888	2.19
イーシステム株式会社	東京都港区芝公園3-5-10	765	1.89
計	-	17,119	42.39

(注) 1. 株式会社ティーケーピーが提出した平成23年3月17日付の大量保有報告書(変更報告書)によると、平成23年3月25日現在で保有する全ての株式を売却した旨が報告されておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

2. 株式会社TKPキャピタルが提出した平成23年3月17日付の大量保有報告書によると、平成23年3月25日現在で3,066株を保有している旨が報告されておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、株式会社TKPキャピタルの大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

大量保有者 株式会社TKPキャピタル
 住所 東京都中央区日本橋茅場町3-7-3
 保有株券等の数 株式 3,066株
 株券等保有割合 7.59%

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,414	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,969	38,969	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	40,383	-	-
総株主の議決権	-	38,969	-

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
リスクモンスター株式会社	東京都千代田区 大手町2-2-1	1,414	-	1,414	3.50
計	-	1,414	-	1,414	3.50

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、旧商法及び会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は以下のとおりであります。

第1回新株予約権

旧商法に基づき、当社の取締役、監査役及び従業員（新株予約権発行日までに入社する者を含む。）に対し、新株予約権を発行することを平成16年6月29日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成16年10月20日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役4名、当社監査役1名、当社従業員18名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	650(注)
新株予約権の行使時の払込金額(円)	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注)平成17年8月19日開催の取締役会決議により、平成17年11月18日付で1株を3株とする株式分割を行っております。これにより株式の数は1,950株に調整されております。

第2回新株予約権

旧商法に基づき、当社の取締役、監査役及び従業員（新株予約権発行日までに入社する者を含む。）に対し、新株予約権を発行することを平成16年6月29日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成16年12月9日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社従業員10名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数（株）	89（注）
新株予約権の行使時の払込金額（円）	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

（注）平成17年8月19日開催の取締役会決議により、平成17年11月18日付で1株を3株とする株式分割を行っております。これにより株式の数は267株に調整されております。

第6回新株予約権

会社法に基づき、当社の従業員に対し新株予約権を発行することを平成20年12月25日の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成20年12月25日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社従業員58名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数（株）	176
新株予約権の行使時の払込金額（円）	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	1,414	-	1,414	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取得または処理した株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、中間配当及び期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、当社の剰余金の配当の決定機関は、期末配当につきましては株主総会、中間配当につきましては取締役会であります。

また、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

当社は、IT業界特有の急激な技術革新とスピードに迅速かつ柔軟に対応すべく、設立以来、将来の設備投資に備え、内部留保の充実を最優先課題として取り組み、無配とさせていただいておりました。同時に、株主に対する利益還元も重要な課題であるとの認識にたち、平成20年5月に3ヵ年中期経営計画「To the next 10」を策定し、同中期経営計画期間中の配当の実現を目標に掲げ、その目標達成に向け邁進してまいりました。その結果、将来の成長と企業価値を高めるための投資を実行しながらも、株主の皆様へ利益還元ができる財務体質及び経営基盤が構築されたものと判断しております。当連結会計年度につきましては、創立10周年を迎えたことに対し株主の皆様へ感謝の意を表するため、記念配当として、当初の予定どおり1株当たり500円の配当(初配)を実施いたしました。

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付け、今後は継続的かつ安定的な配当の実施を目指します。中長期的には配当性向20%以上を目標といたします。

なお、当連結会計年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成23年6月24日 定時株主総会決議	19,484	500

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	369,000	143,000	69,000	75,900	87,500
最低(円)	100,000	38,800	24,000	40,300	32,450

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所ヘラクレスにおけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	35,800	40,500	47,900	51,700	87,500	76,000
最低(円)	32,450	32,900	37,400	42,950	43,800	34,500

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所ヘラクレスにおけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 CEO		菅野 健一	昭和44年5月16日生	平成5年4月 日商岩井株式会社(現 双日株式会社)入社 平成12年9月 当社設立、取締役 平成16年2月 当社専務取締役 平成16年6月 当社代表取締役社長 平成23年4月 当社代表取締役CEO(現任)	(注)3	462
代表取締役 COO兼CFO		藤本 太一	昭和46年5月8日生	平成7年4月 日商岩井株式会社(現 双日株式会社)入社 平成12年9月 当社設立、取締役 平成16年2月 当社常務取締役 平成16年6月 当社専務取締役 平成18年6月 サイバックス株式会社取締役(現任) 平成19年3月 リスモン・マッスル・データ株式会社代表取締役社長 平成21年4月 リスモン・ビジネス・ポータル株式会社代表取締役社長(現任) 平成22年4月 当社取締役副社長経営全般担当兼カスタマーセンターセンター長兼関連事業統括部部長兼業務部部長兼管理ソリューション部部長 平成23年1月 日本アウトソース株式会社代表取締役社長(現任) 平成23年4月 当社代表取締役COO兼CFO(現任) 平成23年6月 リスモン・マッスル・データ株式会社代表取締役社長CEO(現任) 平成23年6月 サイバックス株式会社代表取締役会長(現任)	(注)3	438
取締役		堀 龍兒	昭和18年9月3日生	昭和41年4月 岩井産業株式会社(現 双日株式会社)入社 平成8年6月 日商岩井株式会社(現 双日株式会社)取締役 平成12年6月 同社常務取締役 平成14年6月 同社専務執行役員 平成15年4月 早稲田大学法学部教授 平成16年4月 早稲田大学大学院法務研究科教授(現任) 平成17年6月 株式会社トクヤマ社外監査役(現任) 平成22年6月 大同生命保険株式会社社外取締役(現任) 平成23年6月 当社取締役(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役		佐々木 俊二	昭和13年11月15日生	昭和45年10月 オリエント・リース株式会社(現オリックス株式会社)入社 平成元年6月 同社取締役近畿営業本部副本部長 平成3年6月 同社取締役東京営業本部副本部長 平成5年6月 同社常務取締役業務本部長 平成8年5月 同社専務取締役 平成9年1月 オリックス・レンテック株式会社代表取締役社長 平成14年1月 同社取締役会長 平成16年5月 同社顧問 平成17年2月 株式会社ザ・アール監査役 平成21年4月 当社顧問 平成21年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	19
監査役		鈴木 龍介	昭和41年9月17日生	平成5年1月 司法書士登録 平成12年4月 行政書士登録 平成12年6月 株式会社鈴木総合事務所設立、代表取締役 平成18年12月 司法書士法人鈴木事務所設立、代表社員(現任) 平成20年6月 当社監査役(現任)	(注)5	19
監査役		澁谷 修一	昭和23年4月20日生	昭和47年4月 株式会社富士銀行(現株式会社みずほ銀行)入社 平成2年11月 日本抵当証券株式会社社長室長兼経営全般担当 平成5年11月 株式会社富士銀行(現株式会社みずほ銀行)根津支店長 平成9年5月 同行船場支店長 平成12年6月 株式会社フジシール取締役営業本部長 平成15年6月 同社常務取締役営業本部長 平成17年6月 同社専務取締役営業本部長 平成19年2月 株式会社フジパートナーズ代表取締役社長 平成23年4月 当社顧問 平成23年6月 当社監査役(現任)	(注)6	-
計						938

- (注) 1. 取締役堀龍児は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 2. 監査役佐々木俊二、鈴木龍介及び澁谷修一は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
 3. 平成23年6月24日開催の定時株主総会終結の時から2年間
 4. 平成21年6月25日開催の定時株主総会終結の時から4年間
 5. 平成20年6月26日開催の定時株主総会終結の時から4年間
 6. 平成23年6月24日開催の定時株主総会終結の時から4年間
 7. 当社は、法令または定款に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
寺部 達朗	昭和47年3月15日生	平成6年11月 会計士補登録 平成7年4月 日商岩井株式会社(現 双日株式会社)入社 平成12年3月 イービストレード株式会社設立、執行役員 平成15年10月 同社執行役員 兼 シェアードサービス部管掌 平成16年8月 Rights and Business Management Japan株式会社設立、代表取締役社長(現任) 平成22年7月 当社内部監査室室長(現任)	-

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「顧客を大切にし共に繁栄しよう」の企業理念のもと、直接の顧客はもとより株主をはじめとする利害関係者の方々に対して社会的責任を全うすることを経営上の最大の目標としております。この目標達成の手段としてコーポレート・ガバナンスを捉え、経営の効率性、社会性の両面を総合的に判断し、迅速に対応できる企業統治体制を構築していきたいと考えております。さらに、株主をはじめとする利害関係者の方々に対する経営情報の適時開示（タイムリー・ディスクロージャー）を通じて、より透明性のある経営を行っていく所存であります。

企業統治の体制

ア) 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、監査役制度を採用しており、監査役は3名全員が社外監査役であります。監査役会は内部監査室と連携し、監査の透明性、客観性を高めた監査を実施することにより、業務の適正性を確保しております。また、取締役3名のうち1名が社外取締役であり、業務執行に対する独立性を有した監督機能を果たしており、コーポレート・ガバナンス機能を十分に確保していると考えられるため、現在の体制を採用しております。

当社は、コーポレート・ガバナンスの充実のために、株主総会の充実、取締役会や監査役会の一層の機能強化を図るとともに、積極的かつ継続的なディスクロージャー活動・IR活動に取り組んでおります。

当社のコーポレート・ガバナンス機構に関する体制は、以下のとおりです。

(株主総会)

株主総会は、会社の最高意思決定機関であり、会社の所有者である株主に対する貴重な情報提供及び情報交換、権利行使の場であると認識しております。したがって、積極的なIR活動とタイムリー・ディスクロージャー精神のもと、株主の権利行使に適した環境を構築することを目的に、より開かれた株主総会にすべく、その運営方法につきましては工夫を重ねていく所存です。

(取締役・取締役会)

取締役会は、提出日現在、取締役3名で構成されており、原則として毎月1回開催し、必要に応じ臨時取締役会を適宜開催しております。取締役会では、重要事項は全て付議され、業績の進捗についても討議し、対策等を迅速に行っております。また、意思決定機関である取締役会に対して、審議機関として常勤取締役及び部課長等で構成される「経営会議」を毎月1回、必要に応じて適宜開催しており、各事業部の状況や利益計画の進捗を把握するとともに、コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

(監査役・監査役会)

当社は監査役制度を採用しており、提出日現在、常勤の監査役1名と非常勤の監査役2名（監査役3名は社外監査役）で構成され、定期的に監査役会を開催しております。監査役は、取締役会をはじめとしてその他重要会議に出席し、取締役の業務執行について監査を行う他、重要な決裁書類の閲覧、会計監査人及び内部監査担当者と3ヶ月に1回程度、必要に応じて情報・意見交換を行う等連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指しております。

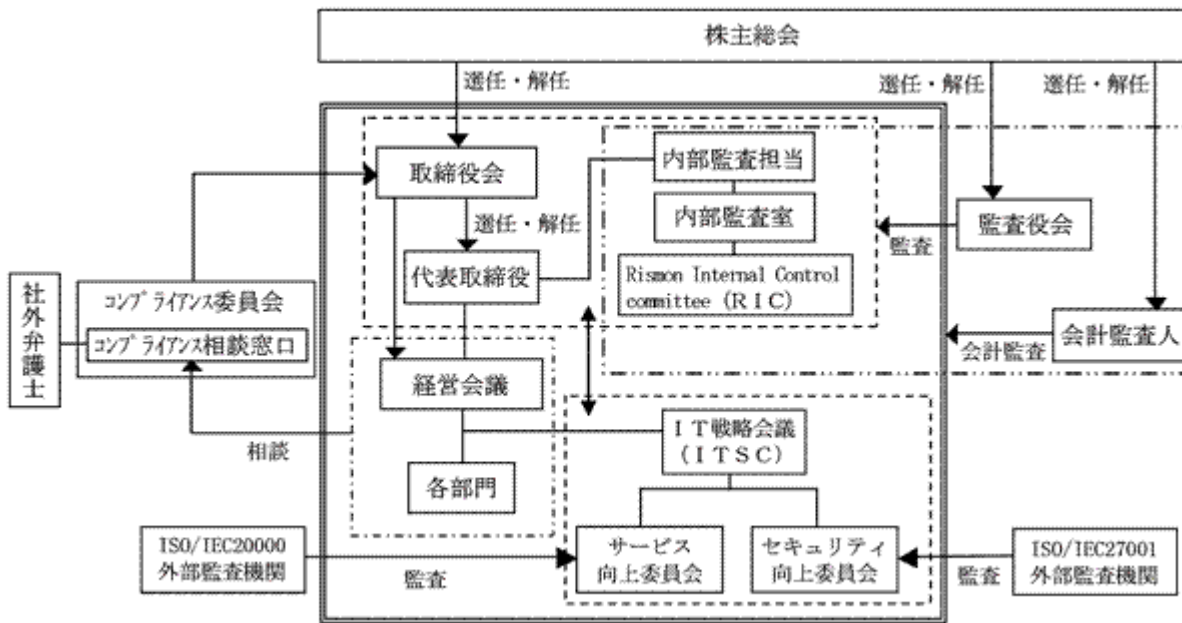
また、監査役の員数が法令または定款に定める員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役を選任しております。

(会計監査人・弁護士等その他第三者の状況)

当社は、新日本有限責任監査法人と会社法及び金融商品取引法に基づく監査について監査契約を締結し、監査を受けております。

また、法律上の判断が必要な際には、随時顧問弁護士に確認し、ステークホルダーとの間の協力体制の確保や、競争原理を踏まえた適切な緊張関係に努めております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制は、下図のとおりであります。



イ) 内部統制システムの整備の状況

当社は、業務の適正性を確保するための体制を整備し、健全な業務執行のために平成18年5月19日開催の取締役会において、「内部統制システム構築の基本方針」を決議し、同基本方針に従い内部統制整備を進めて参りました。また、現状における実施内容を踏まえ、平成21年7月27日に所要の変更を追加決議し、その取り組みも含め整備しております。当該方針の内容は次のとおりであります。

・取締役並びに使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、法令遵守はもとより、広く企業に求められる社会規範、倫理観を尊重し、公正で適切な経営を目指し、「リスクモンスターの企業理念」を定め、具体的な行動指針として「リスクモンスターの行動基準」を定めている。

リスクモンスターの企業理念

- (1) 顧客を大切に共に繁栄しよう。
- (2) プロフェッショナリズムを繁栄の源泉にしよう。

リスクモンスターの行動基準

- (1) 挑戦なくして成長あらず
- (2) 和して同せず
- (3) 着眼大局、着手小局
- (4) 備えよ 常に

取締役及び使用人が法令、定款及び社内規程を遵守し、倫理を尊重する行動ができるように、コンプライアンス委員会を中心にコンプライアンス体制の整備を促進するとともに、コンプライアンス上、疑義ある行為について取締役及び使用人が社外の通報窓口、または社外の弁護士及び専門家を通じて会社に通報できる内部通報制度を設けるとともに、通報者に不利益がないことを確保するものとする。

・取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役はその職務の執行に係る取締役会議事録並びに稟議決裁書、重要文書（電磁的記録を含む）等は、「取締役会規程」及び「文書管理規程」に関する社内規程において、法定の保存期間以上の保存期間並びに保存責任部署を定め、必要に応じて閲覧可能な状態を維持する体制とする。

管理ソリューション部は、その他各種会議体等の議事録、各部門における重要な書類の管理、保存について指導を行うとともに必要な規程の整備を図るものとする。

・損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、事業の目標達成を阻害するリスクを洗い出し、その発生可能性と影響度を評価し、それぞれについての社内規程ないし対応手順と主管部署を定め、損失発生を防ぐとともに発生時の損失極小化を図る。定められた社内規程や対応手順については、その実効性を確認・改善するとともに、事業環境の変化に伴って新たなリスクが生じる場合には、速やかにこれに対応する。

内部監査室は、リスク管理の状況を監査し、必要に応じて関係部署に対し改善提案を行う。監査結果は担当役員経由で代表取締役役に報告する他、監査役にも報告し、監査役及び内部監査室との相互連携の充実、強化に努める。

また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制システムの信頼性の確保については、内部監査室の下部組織として、内部統制評価委員会「Rismon Internal Control committee (R I C)」を設置する。R I Cは、財務報告に係る内部統制に関する手順・文書を定め、全社レベル並びに業務プロセスレベルの評価を実施する。

さらに当社の事業上、重要となる情報セキュリティ及びシステムオペレーション、ITに係るリスク・マネジメント体制を構築するために、担当役員を委員長としたIT戦略会議を設けリスクに対処する体制をとる。IT戦略会議では、リスク・マネジメントに関する目標・計画の策定、社内規程、是正措置、改善措置、事業継続計画等の承認を行う。これに基づきIT統括責任者は、IT利用とIT統制活動を行う環境を整備し、内部統制の品質向上に努める。また、同会議体は、リスクに応じた有事の際の迅速かつ適切な情報伝達と緊急体制を整備し、下部組織として、以下の委員会を設け個別のリスクに対応する。

サービス向上委員会

サービス向上委員会は、サービスマネジメント方針を定め、サービスレベルを継続的に改善させるために、サービスマネジメントシステムの標準規格であるISO/IEC20000を取得し、実践的活用により、オペレーションリスクをコントロールするとともに、規則、マニュアル等を定めて、リスクの発生に備える。また、定期的なレビューと外部監査を受け、結果をIT戦略会議に報告する。

セキュリティ向上委員会

セキュリティ向上委員会は、情報セキュリティ基本方針に従い、これを周知徹底し、システム基盤強化や情報セキュリティ管理に関するマネジメントシステムの標準規格であるISO/IEC27001を取得等、システムリスク及び情報漏えいのリスクをコントロールするとともに、規則、マニュアル等を定めて、リスクの発生に備える。また、定期的なレビューと外部監査を受け、結果をIT戦略会議及び経営会議に報告する。

・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の役割分担、各部署の職務分掌、指揮命令系統、権限並びに意思決定のルールを「組織分掌規程」、「組織および職務権限規程」等に明確に定め、効率化を図る。取締役会で決議すべき事項及び報告すべき事項は取締役会規程に明定し、毎月開催する他、その他の重要事項・分野の審議もしくは決定を行う機関として、経営会議の他、それぞれに対応する委員会等を設置する。

また、少人数の取締役会において、経営上の重要な意思決定を迅速に行い、職務執行の監視を行う。職務の執行は取締役が取締役会の決議に基づいて役割分担し、経営会議にて、業務執行の方針の承認を受け、方針に基づいた業務運営を行う。

業務の運営については、年度計画、中期経営計画を策定し、全体的な目標設定と部門別目標を設定し、その目標設定に向け具体策を決定し、実行する。

・当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

子会社における業務の適正を確保するために、グループ行動基準を定め、コンプライアンス体制の構築に努める。子会社等の関係会社管理として、関係会社管理規程を作成し、子会社の状況に応じて必要な管理を行う。さらに、連結財務報告に係る内部統制評価の観点からも、グループ会社の業務プロセスの整備を行う。

・監査役の職務を補助する使用人、並びに、その取締役からの独立性に関する体制

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合は、当社の使用人を任命し、同使用人は監査役の指示に従い職務を遂行するものとし、その評価には監査役の意見を参考にするものとし、人事異動には監査役会の同意を要するものとする。

- ・取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
取締役は、会社に著しい損害を及ぼす事実が発生し、または、そのおそれのあるとき、直ちにこれを監査役会に報告する。また前記にかかわらず、監査役はいつでも必要に応じて、取締役及び使用人に対して報告を求めることができることとする。
また、監査役は、取締役会の他、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、経営会議や各種委員会に出席し、必要に応じて、取締役及び使用人に対して報告を求めることができることとする。
- ・その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
監査役は、会計監査人、内部監査室、グループの監査役等と情報交換に努め、連携して当社及び当社グループの監査の実効性を確保するものとする。また、監査役会は職務の遂行に必要と判断したときは、前項に定めのない事項においても取締役会及び使用人並びに会計監査人等に対して報告を求めることができることとしている。
また、代表取締役は監査役と定期的に会合を持ち、会社が対処すべき課題、監査役監査の環境整備状況、監査上の重要課題等について意見交換を行う。内部監査室は、効率的な監査役監査に資するよう監査役との相互連携の充実、強化に努める。

ウ) リスク管理体制の整備の状況

当社は、「コンプライアンス委員会」を設置、また「コンプライアンス規程」を制定し、全従業員へ法規遵守等の意識の浸透を図っており、内部統制の強化に努めております。さらに、従業員が職制を超えて相談できる「コンプライアンス窓口」の運営を行っております。また、必要に応じて弁護士等の専門家から経営判断においてアドバイスを受ける体制をとっております。

リスク管理体制といたしましては、内部監査室を設置しリスク管理状況を監査し、必要に応じて関係部署に対し改善提案を行っております。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制システムの信頼性の確保については、内部監査室の下部組織として、内部統制評価委員会「Rismon Internal Control committee (RIC)」を設置し、財務報告に係る内部統制に関する手順・文書を定め、全社レベル並びに業務プロセスレベルの統制活動を通じて、財務報告の信頼性と適正性を確保する体制としております。

情報セキュリティ及びシステムオペレーション、ITに係るリスク管理体制といたしましては、ISO/IEC27001及びISO/IEC20000の認証を取得しており、担当役員を議長とし、常勤取締役及び部長等により構成されるIT戦略会議(ITSC)を中心に、リスクマネジメントシステムに関する目標・計画の策定、社内規程、是正措置、改善措置、事業継続計画等の承認を行っております。また、リスクに応じた有事の際の迅速かつ適切な情報伝達と緊急体制を整備し、下部組織としてサービス向上委員会及びセキュリティ向上委員会を設け、個別のリスクに対応できるよう危機管理体制の整備及び強化に努めております。

また、当社は、反社会的勢力との関係遮断のため、以下の取り組みを実施しております。

- ・基本方針と社内体制について
当社は、コンプライアンス規程に「反社会的勢力との関係断絶」を明文化し、代表取締役等経営トップをはじめ、全社員が反社会的勢力との関係遮断を宣言し、その旨のコンプライアンス誓約書に署名しております。社内体制といたしましては、コンプライアンス委員会を中心としたコンプライアンス体制を促進するとともに、社外の弁護士及び専門家を通じて会社に通報できる内部通報制度を設けています。
- ・会員審査及び株主の属性判断
当社は、外部専門機関等からの情報をもとに反社会的勢力の情報を入手し、新規会員の入会審査において、反社会的勢力に該当する場合には、入会させないこととしております。また、株主については、株主名簿管理人の協力を得て株主の属性判断等を実施しております。
平素より、当社は、所轄の警察署との連携はもとより、社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会に加盟して、同会が主催するセミナーや地区特暴協への参加など緊密な連携関係を構築しております。
今後も引き続き、反社会的勢力排除のための仕組みづくりを進めてまいります。

エ) 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役並びに各社外監査役は、会社法第427条第1項の責任限定契約を締結しております。当該責任限定契約の概要は、次のとおりであります。

- ・社外取締役または社外監査役が任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、金100万円または会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額のいずれか高い額を限度として、その責任を負う。
- ・上記の責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役がその責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限るものとする。

内部監査及び監査役監査の状況

当社は、他の業務部門から独立した内部監査室（専任1名）を設置しております。当社は、監査計画に基づき、会社の業務活動が適正・効率的に行われているかという観点から内部監査を実施し、監査結果は担当役員経由で代表取締役等に報告する他、四半期毎に監査公開会を開催し、取締役会及び監査役会にも報告しております。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制システムの信頼性の確保のため、内部監査室の下部組織として内部統制評価委員会「Rismon Internal Control committee（R I C）」を設置し、財務報告に係る内部統制の有効性評価も実施しております。

内部監査室は、監査役及び会計監査人との連携の充実、強化を図り、内部監査の効率性、合理性に努めております。

監査役は、取締役会はもとよりその他重要会議に出席する他、取締役等からその職務の執行状況や経営状況を聴取し、加えて重要な決裁書類等を閲覧することで、業務執行及び会計等について監督・監査しております。また、会計監査人と3ヶ月に1回程度、四半期レビュー及び期末監査における監査の実施状況について報告を受け、情報・意見交換を行うなど密に連携しております。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、新日本有限責任監査法人に所属する山本秀仁氏及び吉田英志氏であり、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、会計士補等8名、その他3名であります。

当社と会計監査人は、期中においても適宜、月次決算等について意見交換をしております。

なお、当社は、平成22年6月24日開催の定時株主総会において、新日本有限責任監査法人を会計監査人として選任いたしました。当社の会計監査人であったあずさ監査法人（現 有限責任あずさ監査法人）は、平成22年6月24日開催の定時株主総会終結の時をもって退任いたしました。

社外取締役及び社外監査役

当社の取締役は、3名のうち1名が社外取締役であり、監査役は3名全員が社外監査役であります。

当社は、当社の業務執行者から独立した立場で、効率性及び適法性の観点から当社の業務執行の監督を行う役割を果たすのにふさわしい社外取締役及び社外監査役を選任しております。

社外取締役及び社外監査役は、一般株主と利益相反が生じるおそれのない、客観的、中立的立場から、それぞれの専門知識と幅広い経営に対する経験や見識等を活かした客観的観点での監督または監査、助言及び提言等を実施し、取締役会の意思決定及び業務執行の妥当性、適正性を確保する機能、役割を担っております。また、社外取締役1名及び社外監査役3名は、大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

社外取締役飯田茂（平成23年6月24日開催の当社定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任）及び堀龍児（平成23年6月24日開催の当社定時株主総会で新たに選任）と当社との取引等の利害関係はありません。

社外監査役佐々木俊二と当社との取引等の利害関係はありません。

社外監査役細川喜央（平成23年6月24日開催の当社定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任）と当社との取引等の利害関係はありません。

社外監査役鈴木龍介は、当社が主に登記関連業務を委託している司法書士法人鈴木事務所の代表社員であります。

社外監査役澁谷修一（平成23年6月24日開催の当社定時株主総会で新たに選任）と当社は平成23年4月から同年6月までを期間とする顧問契約を締結しております。

また、社外取締役及び社外監査役は、取締役会、監査役会、取締役等との意見交換等を通じて、監査役監査、内部監査、会計監査との連携を図っております。なお、社外取締役及び社外監査役による監督または監査と、監査役監査、内部監査、会計監査との相互連携状況等につきましては、前掲「内部監査及び監査役監査の状況」に記載のとおりです。

役員報酬等

イ) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	71,760	71,760	-	-	-	2
監査役 (社外監査役を除く。)	-	-	-	-	-	-
社外役員	18,000	18,000	-	-	-	4

(注) 当事業年度末現在の取締役の人数は3名、監査役の人数は3名であります。

ロ) 役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

4銘柄 49,224千円

ロ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
テクマトリックス株式会社	700	36,400	サービス提供の安定化及び強化

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
テクマトリックス株式会社	700	40,250	サービス提供の安定化及び強化

ハ) 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計上 額の合計額	貸借対照表計上 額の合計額	受取配当金の合 計額	売却損益の合計 額	評価損益の合計 額
非上場株式	-	-	-	-	-
上記以外の株式	-	502	4	-	-

取締役の定数

当社の取締役は6名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

取締役の解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議については、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款で定めております。これは、株主へ機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

自己株式取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって市場取引等によって自己の株式を取得することができる旨定款で定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

取締役及び監査役の実任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款で定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項の規定によるべき決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	46,000	-	32,000	500
連結子会社	-	-	-	-
計	46,000	-	32,000	500

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、国際財務報告基準に関する助言・支援業務であります。

【監査報酬の決定方針】

特段の方針等は定めておりませんが、会計監査人から監査計画の説明を受け、監査日数、当社の規模及び業務の特性等を勘案し、監査役会とも十分に検討した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。
- なお、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
- なお、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

- 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表及び前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表についてはあずさ監査法人（現 有限責任あずさ監査法人）により監査を受け、当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の連結財務諸表及び当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表については新日本有限責任監査法人により監査を受けております。
- なお、当社の監査人は次のとおり異動しております。
- 前連結会計年度及び前事業年度 あずさ監査法人（現 有限責任あずさ監査法人）
当連結会計年度及び当事業年度 新日本有限責任監査法人

臨時報告書に記載した事項は次のとおりであります。

- (1) 異動に係る監査公認会計士等
選任する監査公認会計士等の名称
新日本有限責任監査法人
退任する監査公認会計士等の名称
あずさ監査法人（現 有限責任あずさ監査法人）
- (2) 異動の年月日
平成22年6月24日（第10回定時株主総会開催日）
- (3) 退任する監査公認会計士等が直近において監査公認会計士等になった年月日
平成18年6月29日
- (4) 退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等における意見等に関する事項
該当事項はありません。
- (5) 異動の決定又は異動に至った理由及び経緯
平成22年6月24日開催の第10回定時株主総会終結をもって任期満了となることに伴う異動であります。
- (6) 上記(5)の理由及び経緯に対する監査報告書等の記載事項に係る退任する監査公認会計士等の意見
「特段の意見はありません。」との回答を得ています。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

- 当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等について適切に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、最新の情報を入手しております。
- また、専門的情報を有する団体等が主催する研修に積極的に参加し、連結財務諸表等の適正性の確保に取り組んでおります。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,839,355	2,022,793
受取手形及び売掛金	287,872	361,173
有価証券	99,991	99,996
原材料及び貯蔵品	4,635	5,565
繰延税金資産	15,948	9,327
その他	49,478	49,605
貸倒引当金	3,989	3,887
流動資産合計	2,293,293	2,544,572
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	62,359	68,947
減価償却累計額	10,643	22,791
建物及び構築物(純額)	51,716	46,155
工具、器具及び備品	287,251	364,255
減価償却累計額	184,514	252,572
工具、器具及び備品(純額)	102,737	111,683
リース資産	-	6,195
減価償却累計額	-	2,263
リース資産(純額)	-	3,931
建設仮勘定	348	6,035
有形固定資産合計	154,801	167,805
無形固定資産		
のれん	36,774	32,030
ソフトウェア	458,208	518,059
その他	22,544	45,867
無形固定資産合計	517,527	595,957
投資その他の資産		
投資有価証券	227,695	300,672
繰延税金資産	9,507	1,756
その他	110,647	136,967
貸倒引当金	253	347
投資その他の資産合計	347,598	439,047
固定資産合計	1,019,927	1,202,811
資産合計	3,313,220	3,747,383

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	147,470	241,151
短期借入金	-	34,592
リース債務	-	1,237
未払法人税等	15,590	95,084
賞与引当金	-	1,232
その他	84,383	78,887
流動負債合計	247,445	452,185
固定負債		
長期借入金	-	62,849
リース債務	-	3,007
退職給付引当金	-	7,641
固定負債合計	-	73,497
負債合計	247,445	525,682
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,107,428	1,107,428
資本剰余金	1,308,089	1,308,089
利益剰余金	682,381	806,548
自己株式	68,700	68,700
株主資本合計	3,029,198	3,153,365
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	14,519	23,656
その他の包括利益累計額合計	14,519	23,656
新株予約権	2,318	3,884
少数株主持分	19,739	40,794
純資産合計	3,065,775	3,221,701
負債純資産合計	3,313,220	3,747,383

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	2,185,952	2,461,146
売上原価	896,983	1,099,775
売上総利益	1,288,969	1,361,371
販売費及び一般管理費	₁ 1,065,009	₁ 1,122,972
営業利益	223,959	238,398
営業外収益		
受取利息	1,637	1,118
受取配当金	1,260	1,874
保険解約返戻金	-	3,434
助成金収入	-	1,418
その他	472	858
営業外収益合計	3,369	8,704
営業外費用		
支払利息	-	2,734
投資事業組合運用損	2,785	2,923
株式交付費	-	651
その他	-	634
営業外費用合計	2,785	6,943
経常利益	224,543	240,159
特別利益		
貸倒引当金戻入額	39	-
段階取得に係る差益	-	1,298
新株予約権戻入益	42	71
その他	-	22
特別利益合計	82	1,393
特別損失		
固定資産除却損	₂ 1,240	₂ 114
投資有価証券評価損	14,943	-
減損損失	₃ 6,981	₃ 6,530
リース解約損	5,065	-
投資有価証券売却損	2,592	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	2,371
特別損失合計	30,824	9,017
税金等調整前当期純利益	193,801	232,535
法人税、住民税及び事業税	20,663	100,716
法人税等調整額	8,101	8,102
法人税等合計	28,765	108,818
少数株主損益調整前当期純利益	-	123,716
少数株主損失()	381	449
当期純利益	165,417	124,166

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	-	123,716
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	9,137
その他の包括利益合計	-	² 9,137
包括利益	-	₁ 132,854
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	-	133,303
少数株主に係る包括利益	-	449

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,107,428	1,107,428
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,107,428	1,107,428
資本剰余金		
前期末残高	1,308,089	1,308,089
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,308,089	1,308,089
利益剰余金		
前期末残高	516,964	682,381
当期変動額		
当期純利益	165,417	124,166
当期変動額合計	165,417	124,166
当期末残高	682,381	806,548
自己株式		
前期末残高	68,700	68,700
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	68,700	68,700
株主資本合計		
前期末残高	2,863,781	3,029,198
当期変動額		
当期純利益	165,417	124,166
当期変動額合計	165,417	124,166
当期末残高	3,029,198	3,153,365
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	6,574	14,519
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	21,094	9,137
当期変動額合計	21,094	9,137
当期末残高	14,519	23,656
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	6,574	14,519
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	21,094	9,137
当期変動額合計	21,094	9,137

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
当期末残高	14,519	23,656
新株予約権		
前期末残高	494	2,318
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,823	1,566
当期変動額合計	1,823	1,566
当期末残高	2,318	3,884
少数株主持分		
前期末残高	20,120	19,739
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	381	21,055
当期変動額合計	381	21,055
当期末残高	19,739	40,794
純資産合計		
前期末残高	2,877,821	3,065,775
当期変動額		
当期純利益	165,417	124,166
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22,536	31,758
当期変動額合計	187,953	155,925
当期末残高	3,065,775	3,221,701

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	193,801	232,535
減価償却費	262,107	290,525
減損損失	6,981	6,530
のれん償却額	14,709	16,943
差入保証金償却額	-	2,647
賞与引当金の増減額（ は減少）	-	684
退職給付引当金の増減額（ は減少）	-	630
貸倒引当金の増減額（ は減少）	1,941	1,348
受取利息及び受取配当金	2,897	2,993
株式交付費	-	651
投資事業組合運用損益（ は益）	2,785	2,923
投資有価証券売却損益（ は益）	2,592	-
リース解約損	5,065	-
固定資産除却損	1,240	114
投資有価証券評価損益（ は益）	14,943	-
支払利息	-	2,734
売上債権の増減額（ は増加）	7,163	29,472
たな卸資産の増減額（ は増加）	81	954
未払金の増減額（ は減少）	1,305	6,560
段階取得に係る差損益（ は益）	-	1,298
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	2,371
その他	39,080	33,403
小計	466,248	565,099
利息及び配当金の受取額	2,436	2,835
利息の支払額	-	2,737
法人税等の支払額	3,117	20,803
営業活動によるキャッシュ・フロー	465,567	544,393
投資活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	28,855
有形固定資産の取得による支出	145,890	53,777
無形固定資産の取得による支出	164,647	199,925
投資有価証券の取得による支出	-	66,411
投資有価証券の売却による収入	9,630	-
敷金の差入による支出	86,288	2,937
敷金の回収による収入	30,238	549
定期預金の預入による支出	100,000	200,567
定期預金の払戻による収入	-	300,219
その他	290	7,310
投資活動によるキャッシュ・フロー	456,667	201,304

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	-	58,881
リース債務の返済による支出	-	462
株式交付費による支出	-	651
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	59,994
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	8,899	283,093
現金及び現金同等物の期首残高	1,730,447	1,739,347
現金及び現金同等物の期末残高	1,739,347	2,022,441

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	連結子会社の数 2社 連結子会社の名称 リスモン・マッスル・データ株式会社 リスモン・ビジネス・ポータル株式会社	連結子会社の数 4社 連結子会社の名称 リスモン・マッスル・データ株式会社 リスモン・ビジネス・ポータル株式会社 サイバックス株式会社 日本アウトソース株式会社 なお、サイバックス株式会社につきましては平成22年5月に、日本アウトソース株式会社につきましては平成23年1月に株式を取得したことに伴い、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。 非連結子会社の名称等 非連結子会社の名称 FTコンサルティング株式会社 (連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。
2. 連結子会社の事業年度等に関する事項	連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。	同左
3. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法	有価証券 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)を採用しております。 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。 たな卸資産 貯蔵品 移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。	有価証券 満期保有目的の債券 同左 その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左 たな卸資産 貯蔵品 同左

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 (3) 繰延資産の処理方法 (4) 重要な引当金の計上基準 (5) のれんの償却方法及び償却期間 (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 (7) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	有形固定資産 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 6～18年 工具、器具及び備品 2～10年 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(2～5年)に基づいております。 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	有形固定資産(リース資産を除く) 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 3～18年 工具、器具及び備品 2～15年 無形固定資産(リース資産を除く) 同左 リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 株式交付費 株式交付費は支出時に全額費用として処理しております。 貸倒引当金 同左 賞与引当金 連結子会社の一部は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。 退職給付引当金 連結子会社の一部は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における自己都合要支給額を退職給付債務とする方法(簡便法)で計上しております。 のれんの償却については、3～5年間の定額法により償却を行っております。 手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。 消費税等の会計処理 同左
4. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	全面時価評価法を採用しております。	
5. のれん及び負ののれんの償却に関する事項	のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。	
6. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(1) 資産除去債務に関する会計基準の適用 当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。 これにより、営業利益及び経常利益は2,647千円減少し、税金等調整前当期純利益が5,019千円減少しております。</p> <p>(2) 企業結合に関する会計基準等の適用 当連結会計年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>(連結損益計算書)</p> <p>1. 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年 3月24日 内閣府令第5号)が平成21年 4月 1日以降開始する連結会計年度から適用できることになったことに伴い、当連結会計年度では、新たに「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>2. 前連結会計年度まで特別利益の「その他」に含めて表示しておりました「新株予約権戻入益」は、特別利益の総額の100分の10を超えたため区分掲記いたしました。なお、前連結会計年度における「新株予約権戻入益」の金額は、11千円であります。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>投資活動によるキャッシュ・フローの「敷金の差入による支出」及び「敷金の回収による収入」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「敷金の差入による支出」及び「敷金の回収による収入」はそれぞれ10,098千円及び11,938千円であります。</p>	

【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)
 該当事項はありません。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																
<p>1 主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">従業員給与</td> <td style="text-align: right;">321,287千円</td> </tr> <tr> <td>支払手数料</td> <td style="text-align: right;">127,521千円</td> </tr> </table> <p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">1,186千円</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">54千円</td> </tr> </table> <p>3 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">場所</th> <th style="width: 15%;">用途</th> <th style="width: 40%;">種類</th> <th style="width: 30%;">金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">連結 子会社</td> <td rowspan="2">事業用資産</td> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">2,038</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">4,942</td> </tr> </tbody> </table> <p>(経緯) 営業活動から生じた損益の継続的なマイナスの計上により、当該事業における資産グループについて減損損失を計上しております。</p> <p>(資産のグルーピングの方法) 各事業に供している事業用資産は、事業単位を基準とした管理会計上の区分に従ってグルーピングを行っております。</p> <p>(回収可能額の算定方法) 回収可能額は零と算定しております。</p>	従業員給与	321,287千円	支払手数料	127,521千円	工具、器具及び備品	1,186千円	ソフトウェア	54千円	場所	用途	種類	金額 (千円)	連結 子会社	事業用資産	工具、器具及び備品	2,038	ソフトウェア	4,942	<p>1 主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">従業員給与</td> <td style="text-align: right;">336,108千円</td> </tr> <tr> <td>地代家賃</td> <td style="text-align: right;">124,206千円</td> </tr> </table> <p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">114千円</td> </tr> </table> <p>3 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">場所</th> <th style="width: 15%;">用途</th> <th style="width: 40%;">種類</th> <th style="width: 30%;">金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連結 子会社</td> <td>事業用資産</td> <td>ソフトウェア仮勘定</td> <td style="text-align: right;">6,530</td> </tr> </tbody> </table> <p>(経緯) 業務用ソフトウェアの一部の開発を延期し、今後の開発予定が未定であるため、減損損失として特別損失に計上しております。</p> <p>(資産のグルーピングの方法) 同左</p> <p>(回収可能額の算定方法) 同左</p>	従業員給与	336,108千円	地代家賃	124,206千円	工具、器具及び備品	114千円	場所	用途	種類	金額 (千円)	連結 子会社	事業用資産	ソフトウェア仮勘定	6,530
従業員給与	321,287千円																																
支払手数料	127,521千円																																
工具、器具及び備品	1,186千円																																
ソフトウェア	54千円																																
場所	用途	種類	金額 (千円)																														
連結 子会社	事業用資産	工具、器具及び備品	2,038																														
		ソフトウェア	4,942																														
従業員給与	336,108千円																																
地代家賃	124,206千円																																
工具、器具及び備品	114千円																																
場所	用途	種類	金額 (千円)																														
連結 子会社	事業用資産	ソフトウェア仮勘定	6,530																														

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益	
親会社株主に係る包括利益	186,511千円
少数株主に係る包括利益	381千円
計	186,130千円
2. 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	21,094千円
計	21,094千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	40,383	-	-	40,383
合計	40,383	-	-	40,383
自己株式				
普通株式	1,414	-	-	1,414
合計	1,414	-	-	1,414

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションとし ての新株予約権(注)	-	-	-	-	-	2,318
合計		-	-	-	-	-	2,318

(注) スtock・オプションとしての新株予約権は、第1回、第2回、第6回ストック・オプションであり、第6回
 スtock・オプションについては、権利行使期間の初日が到来していません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	40,383	-	-	40,383
合計	40,383	-	-	40,383
自己株式				
普通株式	1,414	-	-	1,414
合計	1,414	-	-	1,414

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （千円）
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	ストック・オプションとし ての新株予約権（注）	-	-	-	-	-	3,884
	合計	-	-	-	-	-	3,884

（注）ストック・オプションとしての新株予約権は、第1回、第2回、第6回ストック・オプションであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	19,484	利益剰余金	500	平成23年3月31日	平成23年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)																																																						
<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成22年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">1,839,355千円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">200,000千円</td> </tr> <tr> <td>取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)</td> <td style="text-align: right;">99,991千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,739,347千円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	1,839,355千円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	200,000千円	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	99,991千円	現金及び現金同等物	1,739,347千円	<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成23年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">2,022,793千円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">100,348千円</td> </tr> <tr> <td>取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)</td> <td style="text-align: right;">99,996千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,022,441千円</td> </tr> </table> <p>2. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p>株式の追加取得により新たにサイバックス株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにサイバックス株式会社の取得価額とサイバックス株式会社取得による収入(純額)との関係は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">40,391千円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">110,540千円</td> </tr> <tr> <td>のれん</td> <td style="text-align: right;">4,858千円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">42,098千円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">64,761千円</td> </tr> <tr> <td>少数株主持分</td> <td style="text-align: right;">21,502千円</td> </tr> <tr> <td>取得時持分</td> <td style="text-align: right;">5,703千円</td> </tr> <tr> <td>段階取得に係る差益</td> <td style="text-align: right;">1,298千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">サイバックス株式会社の取得価額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">20,428千円</td> </tr> <tr> <td>サイバックス株式会社現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">21,005千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引：サイバックス株式会社取得による収入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">577千円</td> </tr> </table> <p>株式の取得により新たに日本アウトソース株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに日本アウトソース株式会社の取得価額と日本アウトソース株式会社取得による収入(純額)との関係は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">179,650千円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">18,043千円</td> </tr> <tr> <td>のれん</td> <td style="text-align: right;">7,338千円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">67,728千円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">82,703千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">日本アウトソース株式会社の取得価額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">54,600千円</td> </tr> <tr> <td>日本アウトソース株式会社現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">82,878千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引：日本アウトソース株式会社取得による収入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">28,278千円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	2,022,793千円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	100,348千円	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	99,996千円	現金及び現金同等物	2,022,441千円	流動資産	40,391千円	固定資産	110,540千円	のれん	4,858千円	流動負債	42,098千円	固定負債	64,761千円	少数株主持分	21,502千円	取得時持分	5,703千円	段階取得に係る差益	1,298千円	サイバックス株式会社の取得価額	20,428千円	サイバックス株式会社現金及び現金同等物	21,005千円	差引：サイバックス株式会社取得による収入	577千円	流動資産	179,650千円	固定資産	18,043千円	のれん	7,338千円	流動負債	67,728千円	固定負債	82,703千円	日本アウトソース株式会社の取得価額	54,600千円	日本アウトソース株式会社現金及び現金同等物	82,878千円	差引：日本アウトソース株式会社取得による収入	28,278千円
現金及び預金勘定	1,839,355千円																																																						
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	200,000千円																																																						
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	99,991千円																																																						
現金及び現金同等物	1,739,347千円																																																						
現金及び預金勘定	2,022,793千円																																																						
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	100,348千円																																																						
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	99,996千円																																																						
現金及び現金同等物	2,022,441千円																																																						
流動資産	40,391千円																																																						
固定資産	110,540千円																																																						
のれん	4,858千円																																																						
流動負債	42,098千円																																																						
固定負債	64,761千円																																																						
少数株主持分	21,502千円																																																						
取得時持分	5,703千円																																																						
段階取得に係る差益	1,298千円																																																						
サイバックス株式会社の取得価額	20,428千円																																																						
サイバックス株式会社現金及び現金同等物	21,005千円																																																						
差引：サイバックス株式会社取得による収入	577千円																																																						
流動資産	179,650千円																																																						
固定資産	18,043千円																																																						
のれん	7,338千円																																																						
流動負債	67,728千円																																																						
固定負債	82,703千円																																																						
日本アウトソース株式会社の取得価額	54,600千円																																																						
日本アウトソース株式会社現金及び現金同等物	82,878千円																																																						
差引：日本アウトソース株式会社取得による収入	28,278千円																																																						

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)				当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)			
1. リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引(借主側) (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				1. リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引(借主側) (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)
工具、器具及び備品	12,417	5,461	4,112	工具、器具及び備品	15,084	13,551	1,532
合計	12,417	5,461	4,112	合計	15,084	13,551	1,532
(2) 未経過リース料期末残高相当額				(2) 未経過リース料期末残高相当額			
1年以内			1,983千円	1年以内			1,671千円
1年超			2,398千円	1年超			-千円
合計			4,381千円	合計			1,671千円
(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額				(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額			
支払リース料			2,160千円	支払リース料			3,351千円
減価償却費相当額			1,934千円	減価償却費相当額			3,087千円
支払利息相当額			247千円	支払利息相当額			146千円
(4) 減価償却費相当額の算定方法				(4) 減価償却費相当額の算定方法			
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				同左			
(5) 利息相当額の算定方法				(5) 利息相当額の算定方法			
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。				同左			
				2. オペレーティング・リース取引(借主側) オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料			
1年以内				1年以内			91,796千円
1年超				1年超			15,299千円
合計				合計			107,096千円

(金融商品関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当連結会計年度末現在、当社グループは必要な資金を内部資金で賄える状態にあります。余剰資金は短期的な銀行預金や安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。有価証券及び投資有価証券は発行会社の信用リスク、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である未払金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権である売掛金及びその他債権について、与信管理規程に基づき、取引開始時における与信調査、回収状況の継続的なモニタリングによって財務状況等の悪化による貸倒懸念の早期把握と軽減を図っております。各連結子会社においても同様の管理を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、満期保有目的の債券以外のものについては、市況等を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,839,355	1,839,355	-
(2) 受取手形及び売掛金	287,872	287,872	-
(3) 有価証券	99,991	99,991	-
(4) 投資有価証券	120,391	120,391	-
資産計	2,347,611	2,347,611	-
(1) 未払金	147,470	147,470	-
負債計	147,470	147,470	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券

短期間で償還されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

(1) 未払金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	14,677
投資事業組合出資金	92,627

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,839,355	-	-	-
受取手形及び売掛金	287,872	-	-	-
有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	99,991	-	-	-
合計	2,227,220	-	-	-

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当連結会計年度末現在、当社グループは必要な資金を内部資金で賄える状態にあります。余剰資金は短期的な銀行預金や安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。有価証券及び投資有価証券は発行会社の信用リスク、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である未払金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

会員ビジネスである当社と一部の連結子会社は、会員の入会時に入会審査を行い、信用状況を確認の上、入会の可否を判断しております。加えて、定期的に信用状況のモニタリングを行い、営業債権の回収リスクを把握しております。また、営業債権は小口分散化されており、信用リスクに伴う経営リスクは低くなっております。

その他の連結子会社は、営業債権である売掛金及びその他債権について、社内与信管理ルールに基づき、取引開始時における与信調査、定期的な信用状況と債権回収状況の継続的なモニタリングによって財務状況等の悪化による貸倒懸念の早期把握と軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、満期保有目的の債券以外のものについては、市況等を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,022,793	2,022,793	-
(2) 受取手形及び売掛金	361,173	361,173	-
(3) 有価証券	99,996	99,996	-
(4) 投資有価証券	186,099	186,099	-
資産計	2,670,061	2,670,061	-
(1) 未払金	241,151	241,151	-
負債計	241,151	241,151	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券

短期間で償還されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

(1) 未払金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	26,974
投資事業組合出資金	87,598

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,020,662	-	-	-
受取手形及び売掛金	361,173	-	-	-
有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	99,996	-	-	-
合計	2,481,831	-	-	-

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年3月31日)

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	99,991	99,991	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	99,991	99,991	-
合計		99,991	99,991	-

3. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	36,400	17,640	18,760
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	44,149	28,006	16,143
	小計	80,549	45,646	34,903
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	39,841	49,348	9,507
	小計	39,841	49,348	9,507
合計		120,391	94,995	25,395

(注) 非上場株式及び投資事業組合出資金(連結貸借対照表計上額 計107,304千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 株式	9,630	-	2,592

5. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券の株式について14,943千円の減損処理を行っております。

当連結会計年度(平成23年3月31日)

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	99,996	99,996	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	99,996	99,996	-
合計		99,996	99,996	-

3. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	40,250	17,640	22,610
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	87,048	56,377	30,670
	小計	127,298	74,017	53,280
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,117	1,370	253
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	57,684	69,105	11,421
	小計	58,801	70,475	11,674
合計		186,099	144,492	41,606

(注) 非上場株式及び投資事業組合出資金(連結貸借対照表計上額 計114,573千円)については、市場価格がなく、
 時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当社グループはデリバティブ取引を全く行っておりませ るので、該当事項はありません。	同左

(退職給付関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)										
<p>1. 採用している退職給付制度の概要 確定拠出年金制度を採用しております(ただし子会社を除く)。</p>	<p>1. 採用している退職給付制度の概要 当社は確定拠出年金制度を採用しております。 連結子会社1社は退職一時金制度を採用しかつ全国情報サービス産業厚生年金基金に加入しております。</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">7,641千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">7,641千円</td> </tr> </table> <p>なお、連結子会社1社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。 また、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度による全国情報サービス産業厚生年金基金に関する概況は次のとおりであります。</p> <p>(1) 年金制度全体の積立状況 (平成22年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">年金資産の額</td> <td style="text-align: right;">414,825,659千円</td> </tr> <tr> <td>年金財政計算上の給付債務の額</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">461,109,475千円</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">46,283,815千円</td> </tr> </table> <p>(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出額割合 (平成22年3月分掛金拠出額)0.01%</p> <p>(3) 上記(1)差引額の主な要因は、年金財政計算上の未償却過去勤務債務残高1,156,579千円及び不足金45,127,236千円であります。</p>	退職給付債務	7,641千円	退職給付引当金	7,641千円	年金資産の額	414,825,659千円	年金財政計算上の給付債務の額	461,109,475千円	差引額	46,283,815千円
退職給付債務	7,641千円										
退職給付引当金	7,641千円										
年金資産の額	414,825,659千円										
年金財政計算上の給付債務の額	461,109,475千円										
差引額	46,283,815千円										
<p>2. 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">確定拠出年金への掛金支払額</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">7,129千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">7,129千円</td> </tr> </table>	確定拠出年金への掛金支払額	7,129千円	退職給付費用	7,129千円	<p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用(注)1</td> <td style="text-align: right;">630千円</td> </tr> <tr> <td>その他(注)2</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">7,343千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">7,973千円</td> </tr> </table> <p>(注)1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。 2. その他は、確定拠出年金の掛金支払額及び厚生年金基金への掛金拠出額の合計であります。</p>	勤務費用(注)1	630千円	その他(注)2	7,343千円	退職給付費用	7,973千円
確定拠出年金への掛金支払額	7,129千円										
退職給付費用	7,129千円										
勤務費用(注)1	630千円										
その他(注)2	7,343千円										
退職給付費用	7,973千円										

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. スtock・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額及び科目名

売上原価(株式報酬費用) 339千円
 販売費及び一般管理費(株式報酬費用) 1,526千円

2. 権利不行使による失効が生じ、利益として計上した金額

特別利益(新株予約権戻入益) 42千円

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第6回ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役4名 当社監査役1名 当社従業員18名	当社従業員10名	当社従業員58名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1、2	普通株式 1,950株	普通株式 267株	普通株式 176株
付与日	平成16年10月20日	平成16年12月9日	平成20年12月26日
権利確定条件	権利行使時において当社の取締役、監査役もしくは従業員の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合にはこの限りではない。	同左	権利行使時において当社の従業員の地位にあることを要す。ただし、定年退職その他正当な理由のある場合にはこの限りではない。
対象勤務期間	定めておりません。	同左	平成20年12月26日から平成22年11月28日まで
権利行使期間	平成18年7月2日から平成26年6月29日まで	同左	平成22年11月29日から平成27年11月26日まで

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

2. 平成17年11月18日付で1株につき3株の株式分割を行っておりますので、第1回ストック・オプション及び第2回ストック・オプションについての上記株式数は当該調整後の株式数を記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第6回ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	-	-	172
付与	-	-	-
失効	-	-	15
権利確定	-	-	-
未確定残	-	-	157
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	1,050	150	-
権利確定	-	-	-
権利行使	-	-	-
失効	24	-	-
未行使残	1,026	150	-

(注) 平成17年11月18日付で1株につき3株の株式分割を行っておりますので、第1回ストック・オプション及び第2回ストック・オプションについての上記株式数は当該調整後の株式数を記載しております。

単価情報

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第6回ストック・オプション
権利行使価格(円)	53,334	53,334	51,219
行使時平均株価(円)	-	-	-
付与日における公正な評価単価(円)	-	-	26,564

(注) 平成17年11月18日付で1株につき3株の株式分割を行っておりますので、第1回ストック・オプション及び第2回ストック・オプションについての権利行使価格は当該調整後の権利行使価格を記載しております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積り方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. ストック・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額及び科目名

売上原価（株式報酬費用） 298千円
 販売費及び一般管理費（株式報酬費用） 1,339千円

2. 権利不行使による失効が生じ、利益として計上した金額

特別利益（新株予約権戻入益） 71千円

3. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストック・オプションの内容

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第6回ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役4名 当社監査役1名 当社従業員18名	当社従業員10名	当社従業員58名
株式の種類別のストック・オプションの数（注）1、2	普通株式 1,950株	普通株式 267株	普通株式 176株
付与日	平成16年10月20日	平成16年12月9日	平成20年12月26日
権利確定条件	権利行使時において当社の取締役、監査役もしくは従業員の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合にはこの限りではない。	同左	権利行使時において当社の従業員の地位にあることを要す。ただし、定年退職その他正当な理由のある場合にはこの限りではない。
対象勤務期間	定めておりません。	同左	平成20年12月26日から平成22年11月28日まで
権利行使期間	平成18年7月2日から平成26年6月29日まで	同左	平成22年11月29日から平成27年11月26日まで

（注）1. 株式数に換算して記載しております。

2. 平成17年11月18日付で1株につき3株の株式分割を行っておりますので、第1回ストック・オプション及び第2回ストック・オプションについての上記株式数は当該調整後の株式数を記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第6回ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	-	-	157
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	-	-	157
未確定残	-	-	-
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	1,026	150	-
権利確定	-	-	157
権利行使	-	-	-
失効	-	72	26
未行使残	1,026	78	131

(注) 平成17年11月18日付で1株につき3株の株式分割を行っておりますので、第1回ストック・オプション及び第2回ストック・オプションについての上記株式数は当該調整後の株式数を記載しております。

単価情報

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第6回ストック・オプション
権利行使価格(円)	53,334	53,334	51,219
行使時平均株価(円)	-	-	-
付与日における公正な評価単価(円)	-	-	26,564

(注) 平成17年11月18日付で1株につき3株の株式分割を行っておりますので、第1回ストック・オプション及び第2回ストック・オプションについての権利行使価格は当該調整後の権利行使価格を記載しております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積り方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																																																												
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産(流動)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">2,172千円</td></tr> <tr><td>子会社繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">46,165千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">243千円</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right;">48,582千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">32,633千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">15,948千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産(固定)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>減価償却超過額</td><td style="text-align: right;">11,426千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">8,216千円</td></tr> <tr><td>子会社株式評価損</td><td style="text-align: right;">2,414千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">51千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">3千円</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right;">22,111千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">5,980千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">16,131千円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債(固定)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">3,392千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">3,230千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">6,623千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 25,456千円</p>	未払事業税	2,172千円	子会社繰越欠損金	46,165千円	その他	243千円	小計	48,582千円	評価性引当額	32,633千円	合計	15,948千円	減価償却超過額	11,426千円	投資有価証券評価損	8,216千円	子会社株式評価損	2,414千円	貸倒引当金	51千円	その他	3千円	小計	22,111千円	評価性引当額	5,980千円	合計	16,131千円	その他有価証券評価差額金	3,392千円	その他	3,230千円	合計	6,623千円	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産(流動)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">8,639千円</td></tr> <tr><td>繰延売上利益</td><td style="text-align: right;">6,296千円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">503千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">774千円</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right;">16,213千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">6,886千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">9,327千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産(固定)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>減価償却超過額</td><td style="text-align: right;">7,731千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">6,821千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">3,122千円</td></tr> <tr><td>敷金償却</td><td style="text-align: right;">2,913千円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">2,668千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">70千円</td></tr> <tr><td>子会社繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">134,610千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">439千円</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right;">158,377千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">143,395千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">14,982千円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債(固定)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">8,829千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">4,396千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">13,225千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 11,083千円</p>	未払事業税	8,639千円	繰延売上利益	6,296千円	賞与引当金	503千円	その他	774千円	小計	16,213千円	評価性引当額	6,886千円	合計	9,327千円	減価償却超過額	7,731千円	投資有価証券評価損	6,821千円	退職給付引当金	3,122千円	敷金償却	2,913千円	減損損失	2,668千円	貸倒引当金	70千円	子会社繰越欠損金	134,610千円	その他	439千円	小計	158,377千円	評価性引当額	143,395千円	合計	14,982千円	その他有価証券評価差額金	8,829千円	その他	4,396千円	合計	13,225千円
未払事業税	2,172千円																																																																												
子会社繰越欠損金	46,165千円																																																																												
その他	243千円																																																																												
小計	48,582千円																																																																												
評価性引当額	32,633千円																																																																												
合計	15,948千円																																																																												
減価償却超過額	11,426千円																																																																												
投資有価証券評価損	8,216千円																																																																												
子会社株式評価損	2,414千円																																																																												
貸倒引当金	51千円																																																																												
その他	3千円																																																																												
小計	22,111千円																																																																												
評価性引当額	5,980千円																																																																												
合計	16,131千円																																																																												
その他有価証券評価差額金	3,392千円																																																																												
その他	3,230千円																																																																												
合計	6,623千円																																																																												
未払事業税	8,639千円																																																																												
繰延売上利益	6,296千円																																																																												
賞与引当金	503千円																																																																												
その他	774千円																																																																												
小計	16,213千円																																																																												
評価性引当額	6,886千円																																																																												
合計	9,327千円																																																																												
減価償却超過額	7,731千円																																																																												
投資有価証券評価損	6,821千円																																																																												
退職給付引当金	3,122千円																																																																												
敷金償却	2,913千円																																																																												
減損損失	2,668千円																																																																												
貸倒引当金	70千円																																																																												
子会社繰越欠損金	134,610千円																																																																												
その他	439千円																																																																												
小計	158,377千円																																																																												
評価性引当額	143,395千円																																																																												
合計	14,982千円																																																																												
その他有価証券評価差額金	8,829千円																																																																												
その他	4,396千円																																																																												
合計	13,225千円																																																																												
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.7%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入</td><td style="text-align: right;">6.6%</td></tr> <tr><td>されない項目</td><td></td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">3.0%</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">21.9%</td></tr> <tr><td>子会社繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">15.7%</td></tr> <tr><td>のれん償却額</td><td style="text-align: right;">3.1%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.0%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">14.8%</td></tr> </table>	法定実効税率	40.7%	(調整)		交際費等永久に損金に算入	6.6%	されない項目		住民税均等割	3.0%	評価性引当額	21.9%	子会社繰越欠損金	15.7%	のれん償却額	3.1%	その他	1.0%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	14.8%	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.7%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入</td><td style="text-align: right;">1.5%</td></tr> <tr><td>されない項目</td><td></td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">2.7%</td></tr> <tr><td>のれん償却額</td><td style="text-align: right;">3.1%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.2%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">46.8%</td></tr> </table>	法定実効税率	40.7%	(調整)		交際費等永久に損金に算入	1.5%	されない項目		住民税均等割	2.7%	のれん償却額	3.1%	その他	1.2%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.8%																																								
法定実効税率	40.7%																																																																												
(調整)																																																																													
交際費等永久に損金に算入	6.6%																																																																												
されない項目																																																																													
住民税均等割	3.0%																																																																												
評価性引当額	21.9%																																																																												
子会社繰越欠損金	15.7%																																																																												
のれん償却額	3.1%																																																																												
その他	1.0%																																																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	14.8%																																																																												
法定実効税率	40.7%																																																																												
(調整)																																																																													
交際費等永久に損金に算入	1.5%																																																																												
されない項目																																																																													
住民税均等割	2.7%																																																																												
のれん償却額	3.1%																																																																												
その他	1.2%																																																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.8%																																																																												
<p>3. 法定実効税率の変更</p> <p>繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率を、40.5%から40.7%に変更しております。この税率の変更による影響は軽微であります。</p>																																																																													

(企業結合等関係)

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

取得による企業結合

・サイバックス株式会社

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 サイバックス株式会社

事業の内容 eラーニングシステム及び学習コースの開発・販売等の教育関連事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社はサイバックス株式会社と平成18年4月に資本提携及び業務提携を行って以来、サイト連携をはじめとした販売連携により、与信管理・債権回収の入門講座及び実践講座を中心に同社の学習コンテンツを当社会員企業様に提供しておりますが、同社を子会社化することで、相互にサービス提供を確実に継続できる体制を整えるとともに、近年注力している教育関連事業の推進等により広範な領域で相乗効果を発揮できる枠組みをつくり、当社グループの成長を一段と加速させるためであります。

(3) 企業結合日

平成22年5月13日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

取得直前に所有していた議決権比率 13.07%

企業結合日に追加取得した議決権比率 38.14%

取得後の議決権比率 51.21%

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成22年4月1日(みなし取得日)から平成23年3月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	取得直前に保有していたサイバックス株式会社の企業結合日における時価	7,001千円
	現金及び預金	19,928千円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用	500千円
取得原価		27,429千円

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

1,298千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

4,858千円

(2) 発生原因

被取得企業に係る当社の持分額と取得原価との差額により、発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

3年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	40,391千円
固定資産	110,540千円
資産合計	150,932千円
流動負債	42,098千円
固定負債	64,761千円
負債合計	106,859千円

7. 企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度の開始の日をみなし取得日として連結損益計算書を作成しているため、当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響はありません。

. 日本アウトソース株式会社

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 日本アウトソース株式会社

事業の内容 データエントリー、文書電子化サービス、システム開発

(2) 企業結合を行った主な理由

当社の連結子会社であるリスモン・マッスル・データ株式会社は、日本アウトソース株式会社の全株式を取得することで、昨今の景気低迷の影響による業務改革アウトソーシングサービス事業の需要に対応し、同社の高い精度を誇るデータ入力ノウハウと、当社グループの国内外のデータエントリーセンターを活用した業務改革アウトソーシングサービス事業、さらにこれまで蓄積してきた約250万社の企業情報及び統計的解析手法を組み合わせた高品質で付加価値の高いサービスを提供し、当社グループの成長を一段と加速してまいります。

(3) 企業結合日

平成23年1月14日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

取得直前に所有していた議決権比率 - %

企業結合日に追加取得した議決権比率 100.0%

取得後の議決権比率 100.0%

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成23年1月1日(みなし取得日)から平成23年3月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金及び預金	50,000千円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	4,600千円
取得原価		54,600千円

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

該当事項はありません。

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

7,338千円

(2) 発生原因

被取得企業の純資産と取得原価との差額により、発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

3年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内容

流動資産	179,650千円
固定資産	18,043千円
資産合計	197,694千円
流動負債	67,728千円
固定負債	82,703千円
負債合計	150,432千円

7. 企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及

ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高	216,707千円
営業利益	18,095千円
経常利益	38,117千円
税金等調整前当期純利益	64,691千円
当期純利益	64,867千円
1株当たり当期純利益	1,664.60円

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高及び損益情報と取得企業の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を影響の概算額としております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年3月31日)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

当社グループは、本社オフィス等の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。

なお、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

この見積りにあたり使用見込み期間は入居から6～8年間を採用しております。

当連結会計年度の期首時点において、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額として算定した金額は15,870千円であります。

また、資産除去債務の総額の期中における増減は2,435千円であり、これは日本アウトソース株式会社の株式取得に伴う増加額によるものであります。

2. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上している以外のもの

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

当社グループはインターネットを活用した与信管理ASPサービス及びコンサルティングサービスを提供することを主要事業としており、情報サービス事業単一セグメントのため、該当事項はありません。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、サービス別の事業部門(一部のサービスについては子会社)を置き、各事業部門及び子会社は、取り扱うサービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部門及び子会社を基礎としたサービス別のセグメントから構成されており、「与信管理サービス等」、「ビジネスポータルサイト(グループウェアサービス等)」及び「BPOサービス」の3つを報告セグメントとしております。

「与信管理サービス等」は、インターネットを活用した与信管理ASPサービス及びコンサルティングサービス、「ビジネスポータルサイト(グループウェアサービス等)」はインターネットを活用したグループウェアを中心として提供するビジネスポータルサイトサービス等、「BPOサービス」は、デジタルデータ化を中心としたビジネス・プロセス・アウトソーシング(BPO)サービスを提供しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
 前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日) (単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	連結 財務諸表 計上額 (注)2
	与信管理 サービス等	ビジネスポータル サイト(グループ ウェアサービス 等)	BPO サービス			
売上高						
外部顧客への売上高	1,591,333	487,105	107,513	2,185,952	-	2,185,952
セグメント間の内部 売上高又は振替高	159	1,454	25,948	27,562	27,562	-
計	1,591,492	488,560	133,462	2,213,515	27,562	2,185,952
セグメント利益又は 損失()	168,282	97,367	41,686	223,963	4	223,959
セグメント資産	2,814,043	474,599	20,861	3,309,504	3,716	3,313,220
セグメント負債	161,991	80,310	1,429	243,731	3,713	247,445
その他の項目						
減価償却費	231,002	25,706	5,398	262,107	-	262,107
のれんの償却額	-	14,709	-	14,709	-	14,709
受取利息	1,513	112	11	1,637	-	1,637
支払利息	-	-	-	-	-	-
特別利益	82	-	-	82	-	82
特別損失	18,673	5,169	6,981	30,824	-	30,824
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	269,965	54,306	4,795	329,067	-	329,067

- (注)1. セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。
 2. セグメント資産の調整額は、主に連結子会社との債権の相殺消去3,716千円であります。
 3. セグメント負債の調整額は、主に連結子会社との債務の相殺消去3,713千円であります。
 4. セグメント利益又は損失()は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日） （単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	与信管理 サービス等	ビジネスポ ータルサイト (グループ ウェアサー ビス等)	BPO サービス	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,494,090	505,464	245,933	2,245,488	215,658	2,461,146	-	2,461,146
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,918	1,277	35,053	38,249	1,834	40,084	40,084	-
計	1,496,009	506,742	280,986	2,283,738	217,492	2,501,230	40,084	2,461,146
セグメント利益又は 損失()	160,408	100,330	23,005	237,733	659	238,393	5	238,398
セグメント資産	2,812,576	579,055	213,690	3,605,322	144,359	3,749,681	2,297	3,747,383
セグメント負債	201,124	131,518	89,150	421,793	104,149	525,942	259	525,682
その他の項目								
減価償却費	223,975	33,929	2,454	260,359	30,165	290,525	-	290,525
のれんの償却額	-	14,709	614	15,324	1,619	16,943	-	16,943
受取利息	983	104	23	1,111	7	1,118	-	1,118
支払利息	-	-	281	281	2,453	2,734	-	2,734
特別利益	71	22	-	94	1,298	1,393	-	1,393
特別損失	2,371	-	-	2,371	6,645	9,017	-	9,017
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	200,791	82,670	1,656	285,118	46,038	331,157	-	331,157

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育関連事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント資産の調整額は、主に連結子会社との債権の相殺消去 2,297千円であります。

4. セグメント負債の調整額は、主に連結子会社との債務の相殺消去 259千円であります。

5. セグメント利益又は損失()は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日） （単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)1	全社・消去	合計
	与信管理 サービス等	ビジネスポータル サイト(グループウェア サービス等)	BPO サービス	計			
減損損失	-	-	-	-	6,530	-	6,530

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育関連事業を含んでおります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日） （単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)1	全社・消去	合計
	与信管理 サービス等	ビジネスポータル サイト(グループウェア サービス等)	BPO サービス	計			
当期償却額	-	14,709	614	15,324	1,619	-	16,943
当期末残高	-	22,064	6,727	28,791	3,239	-	32,030

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育関連事業を含んでおります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

(追加情報)

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	78,106.14円	1株当たり純資産額	81,526.91円
1株当たり当期純利益金額	4,244.84円	1株当たり当期純利益金額	3,186.29円
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	4,241.58円	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	165,417	124,166
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	165,417	124,166
期中平均株式数(株)	38,969	38,969
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	30	-
(うち新株予約権(株))	(30)	(-)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		平成16年6月29日定時株主総会決議新株予約権 (平成16年10月20日取締役会決議) 新株予約権の数 342個 (平成16年12月9日取締役会決議) 新株予約権の数 26個 平成20年12月25日取締役会決議 新株予約権 新株予約権の数 131個

(重要な後発事象)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>サイバックス株式会社の株式取得による子会社化</p> <p>当社は、平成22年4月23日開催の取締役会決議に基づき、平成22年5月13日付でサイバックス株式会社の株式を取得し、同社を子会社といたしました。</p> <p>1. 株式の取得の理由</p> <p>サイバックス株式会社とは平成18年4月に資本提携及び業務提携を行って以来、サイト連携をはじめとした販売連携により、与信管理・債権回収の入門講座及び実践講座を中心に同社の学習コンテンツを当社会員企業様に提供してまいりました。今後は同社を子会社化することで、相互にサービス提供を確実に継続できる体制を整えるとともに、近年注力している教育支援事業の推進等により広範な領域で相乗効果を発揮できる枠組みをつくり、当社グループの成長を一段と加速させてまいります。</p> <p>2. 株式取得の相手先の名称</p> <p>片岡明彦 ダイワボウ情報システム株式会社 など計11名</p> <p>3. 株式を取得する会社の名称、事業内容、規模</p> <p>(1) 名称 サイバックス株式会社</p> <p>(2) 事業内容 eラーニングシステム及び学習コースの開発・販売 他</p> <p>(3) 規模(平成22年3月期)</p> <p>売上高 162百万円 営業損失 31百万円 経常損失 33百万円 当期純損失 37百万円 総資産 150百万円</p> <p>4. 株式取得の時期 平成22年5月13日</p> <p>5. 取得株式の数、取得前後の所有株式の状況</p> <p>(1) 取得前の所有株式数 970株 (2) 取得前の所有割合 13.07% (3) 取得株式数 2,830株 (4) 取得後の所有株式数 3,800株 (5) 取得後の所有割合 51.21%</p> <p>6. 取得価額 19,928千円</p> <p>7. 支払資金の調達</p> <p>自己資金を充当しております。</p>	

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	-	34,592	2.8	
1年以内に返済予定のリース債務	-	1,237	5.6	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	62,849	2.8	平成24年～平成31年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	3,007	5.6	平成24年～平成27年
合計	-	101,685	-	

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	15,758	8,304	8,304	8,304
リース債務	1,278	667	655	405

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高(千円)	584,117	624,307	596,053	656,667
税金等調整前四半期純利益 金額(千円)	53,699	89,266	47,574	41,994
四半期純利益金額(千円)	28,172	48,363	22,682	24,946
1株当たり四半期純利益金 額(円)	722.95	1,241.09	582.08	640.17

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,519,392	1,523,710
売掛金	224,303	203,705
有価証券	99,991	99,996
原材料及び貯蔵品	4,391	3,686
前払費用	41,644	38,845
繰延税金資産	2,403	5,945
その他	3,925	2,412
貸倒引当金	383	370
流動資産合計	1,895,669	1,877,932
固定資産		
有形固定資産		
建物	62,359	63,155
減価償却累計額	10,643	19,216
建物(純額)	51,716	43,939
工具、器具及び備品	198,025	212,280
減価償却累計額	124,738	157,086
工具、器具及び備品(純額)	73,286	55,193
建設仮勘定	348	6,035
有形固定資産合計	125,350	105,167
無形固定資産		
商標権	1,433	1,117
ソフトウェア	434,997	409,742
ソフトウェア仮勘定	16,380	21,396
その他	180	180
無形固定資産合計	452,991	432,436
投資その他の資産		
投資有価証券	227,695	282,057
関係会社株式	201,359	327,486
破産更生債権等	253	347
長期前払費用	2,541	2,647
繰延税金資産	9,154	256
敷金	99,725	97,170
その他	7,924	21,424
貸倒引当金	253	347
投資その他の資産合計	548,400	731,042
固定資産合計	1,126,743	1,268,646
資産合計	3,022,412	3,146,578

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	105,376	115,570
未払法人税等	14,460	57,003
前受金	8,720	9,200
預り金	28,355	10,884
その他	5,079	8,465
流動負債合計	161,991	201,124
負債合計	161,991	201,124
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,107,428	1,107,428
資本剰余金		
資本準備金	670,279	670,279
その他資本剰余金	637,809	637,809
資本剰余金合計	1,308,089	1,308,089
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	496,765	571,093
利益剰余金合計	496,765	571,093
自己株式	68,700	68,700
株主資本合計	2,843,582	2,917,910
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,519	23,659
評価・換算差額等合計	14,519	23,659
新株予約権	2,318	3,884
純資産合計	2,860,420	2,945,454
負債純資産合計	3,022,412	3,146,578

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	1,670,362	1,573,200
売上原価	630,944	618,597
売上総利益	1,039,417	954,603
販売費及び一般管理費	¹ 880,910	¹ 816,454
営業利益	158,507	138,148
営業外収益		
受取利息	1,059	842
有価証券利息	453	141
受取配当金	1,260	1,854
株式割当益	-	595
その他	349	237
営業外収益合計	3,122	3,670
営業外費用		
投資事業組合運用損	2,785	2,923
営業外費用合計	2,785	2,923
経常利益	158,844	138,896
特別利益		
貸倒引当金戻入額	39	-
新株予約権戻入益	42	71
特別利益合計	82	71
特別損失		
固定資産除却損	² 1,136	-
投資有価証券評価損	14,943	-
子会社株式評価損	74,440	-
投資有価証券売却損	2,592	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	2,371
特別損失合計	93,114	2,371
税引前当期純利益	65,812	136,595
法人税、住民税及び事業税	19,671	63,181
法人税等調整額	11,280	913
法人税等合計	30,952	62,268
当期純利益	34,859	74,327

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)		当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
情報使用料	2	216,820	34.4	213,572	34.5
労務費		114,177	18.1	93,356	15.1
経費		299,946	47.5	311,667	50.4
当期売上原価		630,944	100.0	618,597	100.0

(注)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1. サービスの維持管理に係わる情報使用料、労務費及び 経費を売上原価として計上しております。 2. 主な経費の内容は、次のとおりであります。 外注費 89,947千円 減価償却費 163,055千円 保守料 23,652千円	1. 同左 2. 主な経費の内容は、次のとおりであります。 外注費 92,816千円 減価償却費 169,793千円 保守料 25,591千円

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,107,428	1,107,428
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,107,428	1,107,428
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	670,279	670,279
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	670,279	670,279
その他資本剰余金		
前期末残高	637,809	637,809
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	637,809	637,809
資本剰余金合計		
前期末残高	1,308,089	1,308,089
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,308,089	1,308,089
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
前期末残高	461,906	496,765
当期変動額		
当期純利益	34,859	74,327
当期変動額合計	34,859	74,327
当期末残高	496,765	571,093
利益剰余金合計		
前期末残高	461,906	496,765
当期変動額		
当期純利益	34,859	74,327
当期変動額合計	34,859	74,327
当期末残高	496,765	571,093
自己株式		
前期末残高	68,700	68,700
当期変動額		
当期変動額合計	-	-

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
当期末残高	68,700	68,700
株主資本合計		
前期末残高	2,808,723	2,843,582
当期変動額		
当期純利益	34,859	74,327
当期変動額合計	34,859	74,327
当期末残高	2,843,582	2,917,910
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	6,574	14,519
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	21,094	9,140
当期変動額合計	21,094	9,140
当期末残高	14,519	23,659
評価・換算差額等合計		
前期末残高	6,574	14,519
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	21,094	9,140
当期変動額合計	21,094	9,140
当期末残高	14,519	23,659
新株予約権		
前期末残高	494	2,318
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,823	1,566
当期変動額合計	1,823	1,566
当期末残高	2,318	3,884
純資産合計		
前期末残高	2,802,642	2,860,420
当期変動額		
当期純利益	34,859	74,327
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	22,917	10,706
当期変動額合計	57,777	85,033
当期末残高	2,860,420	2,945,454

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)を採用しております。 (2) 子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。 (3) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。	(1) 満期保有目的の債券 同左 (2) 子会社株式 同左 (3) その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	貯蔵品 移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。	貯蔵品 同左
3. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 6～18年 工具、器具及び備品 4～10年 (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(2～5年)に基づいております。	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 6～18年 工具、器具及び備品 3～10年 (2) 無形固定資産 同左
4. 引当金の計上基準	貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。	貸倒引当金 同左
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

【会計処理方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	<p>(1) 資産除去債務に関する会計基準の適用 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、営業利益及び経常利益は2,571千円減少し、税引前当期純利益が4,943千円減少しております。</p> <p>(2) 企業結合に関する会計基準等の適用 当事業年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。</p>

【表示方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>(損益計算書) 前事業年度まで特別利益の「その他」に含めて表示しておりました「新株予約権戻入益」は、特別利益の総額の100分の10を超えたため区分掲記いたしました。なお、前事業年度における「新株予約権戻入益」の金額は、11千円であります。</p>	

【注記事項】

(貸借対照表関係)
 該当事項はありません。

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																				
<p>1 販売費に属する費用の割合は9.1%、一般管理費に属する費用の割合は90.9%であります。 主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">従業員給与</td> <td style="text-align: right;">263,486千円</td> </tr> <tr> <td>役員報酬</td> <td style="text-align: right;">101,390千円</td> </tr> <tr> <td>支払手数料</td> <td style="text-align: right;">120,173千円</td> </tr> </table> <p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">1,136千円</td> </tr> </table>	従業員給与	263,486千円	役員報酬	101,390千円	支払手数料	120,173千円	工具、器具及び備品	1,136千円	<p>1 販売費に属する費用の割合は9.8%、一般管理費に属する費用の割合は90.2%であります。 主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">従業員給与</td> <td style="text-align: right;">224,050千円</td> </tr> <tr> <td>役員報酬</td> <td style="text-align: right;">89,760千円</td> </tr> <tr> <td>地代家賃</td> <td style="text-align: right;">88,513千円</td> </tr> <tr> <td>支払手数料</td> <td style="text-align: right;">96,561千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">55,996千円</td> </tr> <tr> <td>外注費</td> <td style="text-align: right;">49,899千円</td> </tr> </table>	従業員給与	224,050千円	役員報酬	89,760千円	地代家賃	88,513千円	支払手数料	96,561千円	減価償却費	55,996千円	外注費	49,899千円
従業員給与	263,486千円																				
役員報酬	101,390千円																				
支払手数料	120,173千円																				
工具、器具及び備品	1,136千円																				
従業員給与	224,050千円																				
役員報酬	89,760千円																				
地代家賃	88,513千円																				
支払手数料	96,561千円																				
減価償却費	55,996千円																				
外注費	49,899千円																				

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	1,414	-	-	1,414
合計	1,414	-	-	1,414

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	1,414	-	-	1,414
合計	1,414	-	-	1,414

(リース取引関係)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)						
当社が保有するリース物件1件当たりの金額が少額であったため、注記を省略しております。	オペレーティング・リース取引(借主側) オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>1年以内</td> <td>91,796千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>15,299千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>107,096千円</td> </tr> </table>	1年以内	91,796千円	1年超	15,299千円	合計	107,096千円
1年以内	91,796千円						
1年超	15,299千円						
合計	107,096千円						

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 201,359千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 327,486千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産(流動)</p> <p>未払事業税 2,172千円</p> <p>その他 230千円</p> <p>合計 2,403千円</p> <p>繰延税金資産(固定)</p> <p>減価償却超過額 8,394千円</p> <p>投資有価証券評価損 8,216千円</p> <p>子会社株式評価損 2,414千円</p> <p>貸倒引当金 51千円</p> <p>その他 3千円</p> <p>小計 19,079千円</p> <p>評価性引当額 3,301千円</p> <p>合計 15,778千円</p> <p>繰延税金負債(固定)</p> <p>その他有価証券評価差額金 3,392千円</p> <p>その他 3,230千円</p> <p>合計 6,623千円</p> <p>繰延税金資産の純額 11,558千円</p>	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産(流動)</p> <p>未払事業税 5,257千円</p> <p>その他 688千円</p> <p>合計 5,945千円</p> <p>繰延税金資産(固定)</p> <p>減価償却超過額 4,578千円</p> <p>投資有価証券評価損 6,821千円</p> <p>子会社株式評価損 2,414千円</p> <p>敷金償却 2,011千円</p> <p>貸倒引当金 70千円</p> <p>小計 15,896千円</p> <p>評価性引当額 2,414千円</p> <p>合計 13,482千円</p> <p>繰延税金負債(固定)</p> <p>その他有価証券評価差額金 8,829千円</p> <p>その他 4,396千円</p> <p>合計 13,225千円</p> <p>繰延税金資産の純額 6,201千円</p>
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率 40.7%</p> <p>(調整)</p> <p>交際費等永久に損金に算入されない項目 19.4%</p> <p>住民税均等割 7.2%</p> <p>評価性引当額 18.6%</p> <p>その他 1.7%</p> <p>税効果会計適用後の法人税等の負担率 47.0%</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差額が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>
<p>3. 法定実効税率の変更</p> <p>繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率を、40.5%から40.7%に変更しております。この税率の変更による影響は軽微であります。</p>	

(企業結合等関係)

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に記載しているため、注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

1. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

当社は、本社オフィス等の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。

なお、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

この見積もりにあたり使用見込み期間は入居から7年間を採用しております。

当事業年度の期首時点において、敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額として算定した金額は15,870千円であります。

また、資産除去債務の総額の期中における増減は、上記算定金額以外ありません。

2. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上している以外のもの

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	73,342.97円	1株当たり純資産額	75,484.88円
1株当たり当期純利益金額	894.55円	1株当たり当期純利益金額	1,907.35円
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	893.86円	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

区分	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	34,859	74,327
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	34,859	74,327
期中平均株式数(株)	38,969	38,969
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	30	-
(うち新株予約権(株))	(30)	(-)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		平成16年6月29日定時株主総会決議新株予約権 (平成16年10月20日取締役会決議) 新株予約権の数 342個 (平成16年12月9日取締役会決議) 新株予約権の数 26個 平成20年12月25日取締役会決議 新株予約権 新株予約権の数 131個

(重要な後発事象)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>サイバックス株式会社の株式取得による子会社化 当社は、平成22年4月23日開催の取締役会決議に基づき、平成22年5月13日付でサイバックス株式会社の株式を取得し、同社を子会社といたしました。</p> <p>1. 株式の取得の理由 サイバックス株式会社とは平成18年4月に資本提携及び業務提携を行って以来、サイト連携をはじめとした販売連携により、与信管理・債権回収の入門講座及び実践講座を中心に同社の学習コンテンツを当社会員企業様に提供してまいりました。今後は同社を子会社化することで、相互にサービス提供を確実に継続できる体制を整えるとともに、近年注力している教育支援事業の推進等により広範な領域で相乗効果を発揮できる枠組みをつくり、当社グループの成長を一段と加速させてまいります。</p> <p>2. 株式取得の相手先の名称 片岡明彦 ダイワボウ情報システム株式会社 など計11名</p> <p>3. 株式を取得する会社の名称、事業内容、規模 (1) 名称 サイバックス株式会社 (2) 事業内容 eラーニングシステム及び学習コースの開発・販売 他 (3) 規模(平成22年3月期) 売上高 162百万円 営業損失 31百万円 経常損失 33百万円 当期純損失 37百万円 総資産 150百万円</p> <p>4. 株式取得の時期 平成22年5月13日</p> <p>5. 取得株式の数、取得前後の所有株式の状況 (1) 取得前の所有株式数 970株 (2) 取得前の所有割合 13.07% (3) 取得株式数 2,830株 (4) 取得後の所有株式数 3,800株 (5) 取得後の所有割合 51.21%</p> <p>6. 取得価額 19,928千円</p> <p>7. 支払資金の調達 自己資金を充当しております。</p>	

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		テクマトリックス株式会社	700	40,250
株式会社ジンテック	20	7,000		
日本震災パートナーズ株式会社	100	1,974		
第一生命保険株式会社	4	502		
サイボウズ・メディアアンドテクノロジーズ株式会社	2,400	0		
		計	3,224	49,726

【債券】

有価証券	満期保有目的の 債券	銘柄	券面総額(千円)	貸借対照表計上額 (千円)
		オリックス株式会社短期社債	100,000	99,996
		計	100,000	99,996

【その他】

投資有価証券	その他有価証券	種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (千円)
		(投資信託受益証券)		
アドバンス・レジデンス投資法人	250	40,900		
クロッカー・グローバルセクター・ファンド	48,000,000	37,296		
ダイワ日本国債ファンド	19,206,388	19,774		
海外国債ファンド	20,624,421	15,928		
新光日本インカム株式ファンド	20,000,000	11,806		
その他証券投資信託受益証券 (2銘柄)	20,175,127	19,027		
(投資事業有限責任組合)				
ジャフコ・スーパーV3-A号投資 事業有限責任組合	1	87,598		
		計	-	232,330

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	62,359	796	-	63,155	19,216	8,573	43,939
工具、器具及び備品	198,025	15,213	958	212,280	157,086	33,306	55,193
建設仮勘定	348	10,175	4,488	6,035	-	-	6,035
有形固定資産計	260,732	26,185	5,446	281,471	176,303	41,879	105,167
無形固定資産							
商標権	2,728	-	-	2,728	1,611	315	1,117
ソフトウェア	1,307,287	158,339	180	1,465,446	1,055,703	183,594	409,742
ソフトウェア仮勘定	16,380	139,960	134,944	21,396	-	-	21,396
その他	180	-	-	180	-	-	180
無形固定資産計	1,326,576	298,299	135,124	1,489,751	1,057,315	183,910	432,436
長期前払費用	2,541	2,310	2,203	2,647	-	-	2,647
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

工具、器具及び備品	増加額(千円)	システムサーバーの増強等	12,436
ソフトウェア	増加額(千円)	サービス基幹システムの増強等	143,538
ソフトウェア仮勘定	増加額(千円)	サービス基幹システムの増強等	130,793

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	636	531	24	424	718

(注) 当期減少額その他の金額は、債権の回収による取崩額41千円及び一般債権の洗替による戻入額383千円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	1,368
預金	
普通預金	1,421,989
定期預金	100,348
当座預金	4
小計	1,522,342
合計	1,523,710

売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社りそな銀行	3,683
株式会社日本経済新聞デジタルメディア	2,672
ヒロセ株式会社	2,006
カメイ株式会社	1,881
KDDI株式会社	1,788
その他	191,672
合計	203,705

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 365
224,303	1,620,871	1,641,469	203,705	89.0	48.2

(注) 上記金額には消費税等が含まれております。

原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
貯蔵品	
SECUR IDカード	470
ICカード	746
ファイル	588
販売促進用書籍	1,264
その他	616
合計	3,686

投資有価証券

区分	金額(千円)
ジャフコ・スーパーV3-A号投資事業有限責任組合	87,598
テクマトリックス株式会社	40,250
アドバンス・レジデンス投資法人	40,900
クロッキー・グローバルセクター・ファンド	37,296
ダイワ日本国債ファンド	19,774
その他	56,238
合計	282,057

関係会社株式

区分	金額(千円)
リスモン・マッスル・データ株式会社	110,555
リスモン・ビジネス・ポータル株式会社	190,800
サイバックス株式会社	26,131
合計	327,486

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	決算期末から3ヶ月以内
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	-
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.aspir.co.jp/koukoku/3768/3768.html
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第10期）（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月24日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成22年6月24日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第11期第1四半期）（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）平成22年8月13日関東財務局長に提出

（第11期第2四半期）（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）平成22年11月12日関東財務局長に提出

（第11期第3四半期）（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）平成23年2月10日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成22年6月29日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成23年3月16日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月24日

リスクモンスター株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 鳥居 明 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 櫻井 紀彰 印
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているリスクモンスター株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、リスクモンスター株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、リスクモンスター株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、リスクモンスター株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月24日

リスクモンスター株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 秀仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 英志 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているリスクモンスター株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、リスクモンスター株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、リスクモンスター株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、リスクモンスター株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成22年6月24日

リスクモンスター株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鳥居 明 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 櫻井 紀彰 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているリスクモンスター株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第10期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、リスクモンスター株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成23年6月24日

リスクモンスター株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 秀仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 英志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているリスクモンスター株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第11期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、リスクモンスター株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。